

アンケート調査結果の概要について

「岡山市子ども・子育て支援プラン」（「子どもの貧困対策計画」などを含む）及び「岡山市子ども・子育て支援事業計画」の計画期間が令和6年度末であることから、改訂にあわせて、こども基本法に基づく「こども計画」として一体的に策定する予定としています。

このため、計画策定の基礎資料とすることを目的として、こどもや若者、子育て世帯を対象としたアンケート調査を以下のとおり実施しました。

1. アンケート調査の概要

(1) 調査一覧

	調査名	対 象※	主な調査項目
1	中高生世代の意識に関するアンケート調査	中学1年生から高校2年生世代のこども 2,000人	自己肯定感、自分の意見を言う機会、結婚など将来の希望、悩みの内容など
2	若者の意識に関するアンケート調査	18歳から39歳までの若者 2,000人	自己肯定感、結婚やこどもをもつことの希望、仕事や経済状況、困難経験など
3	子ども・子育て支援に関するアンケート調査	0歳から小学6年生までの子どもがいる家庭 5,000世帯	保育施設等の利用状況及び今後の利用希望、保護者の就労や子育ての状況など
4	子どもの生活実態調査	小学5年生とその保護者 2,500世帯 中学2年生とその保護者 2,500世帯	世帯収入及び世帯状況別に、保護者と児童の生活状況や意識など

※市内に居住する対象者を無作為抽出

(2) 調査方法

郵送による調査票の配付

郵送またはインターネットによる回収

(3) 調査期間

1から3の調査：令和6年1月23日～令和6年2月13日

4の調査：令和5年11月17日～令和5年12月13日

2. 調査結果の概要

別添資料のとおり

岡山市中高生世代の意識に関するアンケート調査結果の概要

1 調査概要

(1) 調査目的

岡山市の将来を担う中高生世代の実態やニーズを把握し、中高生世代の支援に関する施策の参考とするため実施しました。

(2) 抽出方法

市内に居住する中学1年生から高校2年生世代の市民の中から無作為抽出

(3) 調査及び回収方法

郵送による配布

郵送またはインターネットによる回収

(4) 調査対象

市内に居住する中学1年生から高校2年生世代の市民 2,000人

(5) 調査期間

令和6年1月23日～令和6年2月13日

(6) 回収結果

有効回収数 884人

回収率 44.2% (うちインターネットによる回収21.3%)

【こどもの年齢別】

年齢	回収数	割合
中学1年生	143	16.2%
中学2年生	163	18.4%
中学3年生	206	23.3%
高校1年生	199	22.5%
高校2年生	163	18.4%
その他	2	0.2%
無回答	8	0.9%
合計	884	100%

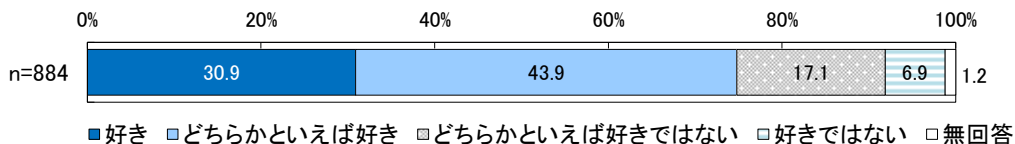
2 調査結果

(1) 自分のことについて

①：自己肯定感（今の自分のことが好きか）

今の自分が好きと回答した人 74.8%

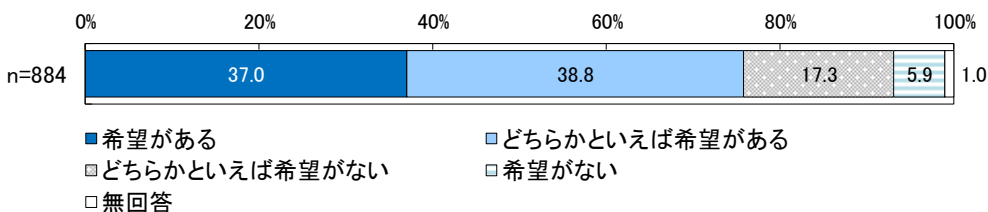
（「好き」「どちらかといえば好き」をあわせた数）



②：将来への希望（自分の将来について明るい希望を持っているか）

自分の将来に明るい希望があると回答した人 75.8%

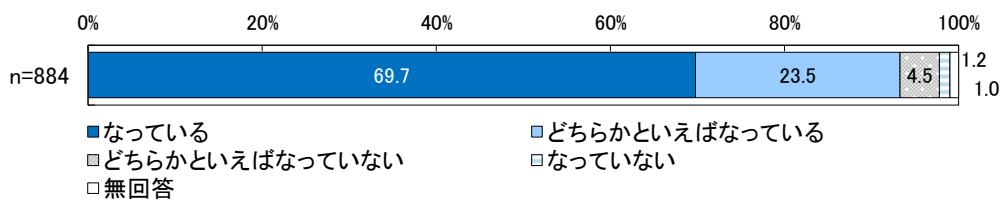
（「希望がある」「どちらかといえば希望がある」をあわせた数）



③：家庭が居場所になっているか（家庭は「ここに居たい」と感じる場所か）

家庭について居場所になっていると回答した人 93.2%

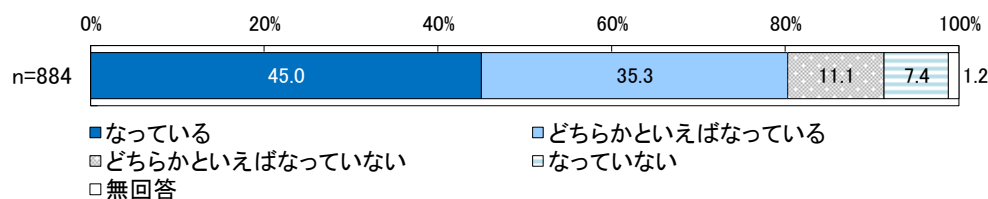
（「なっている」「どちらかといえばなっている」をあわせた数）



④：学校が居場所になっているか（学校は「ここに居たい」と感じる場所か）

学校について居場所になっていると回答した人 80.3%

（「なっている」「どちらかといえばなっている」をあわせた数）

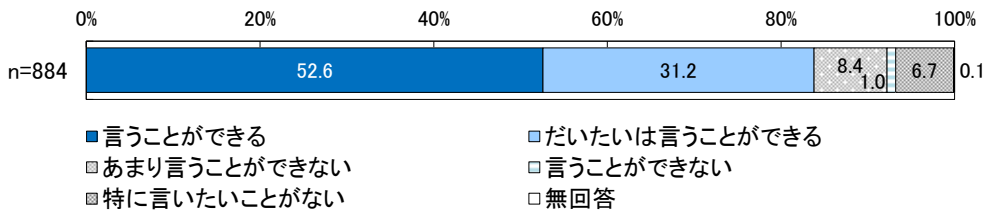


(2) 自分の意見を言う機会について

①：自分の将来について決めるとき（自分の考えや思いを言う機会があるか）

進路など自分の将来について自分の意見を言うことができる人 83.8%

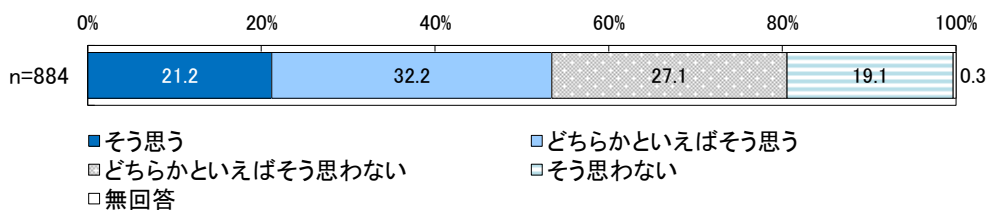
（「言うことができる」「だいたいと言うことができる」をあわせた数）



②：政策について意見を言う機会への参加意向（参加したいか）

政策について意見を言う機会があれば参加したいと思う人 53.4%

（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせた数）

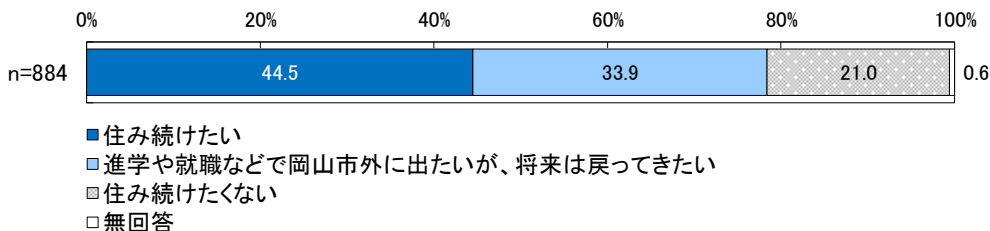


(3) 岡山市での居住継続意向について

①：大人になっても岡山市に住み続けたいか

「住み続けたい」 44.5%

「進学や就職などで市外に出たいが将来は戻ってきたい」 33.9%

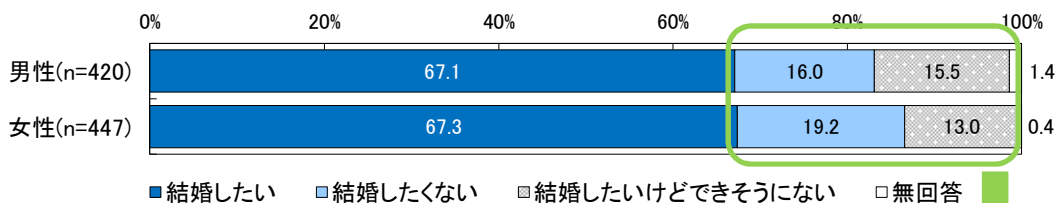


住み続けたい理由は 「友人・知人が多い」 55.6%
「災害が少ない」 53.4% 「親や家族と同居できる、近くに
住める」 53.2%が上位3位

(4) 結婚への希望について

①：将来結婚したいか

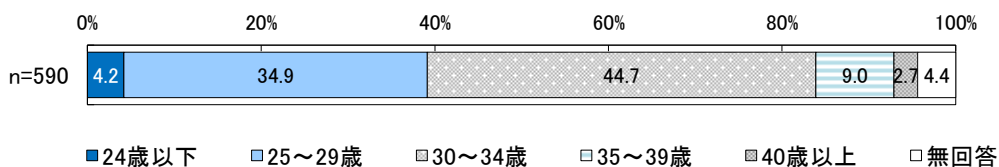
「結婚したい」は男女とも約67%
約3割が男女とも「結婚したくない」「結婚したいけどできそうにない」



「結婚したくない」理由：「独身の方が自由だから」(60.2%)
「必要性を感じない」(44.7%)
「結婚したいけどできそうにない」理由：「出会う機会がなさそう」(48%)
「お金がたくさん必要」(27.2%)

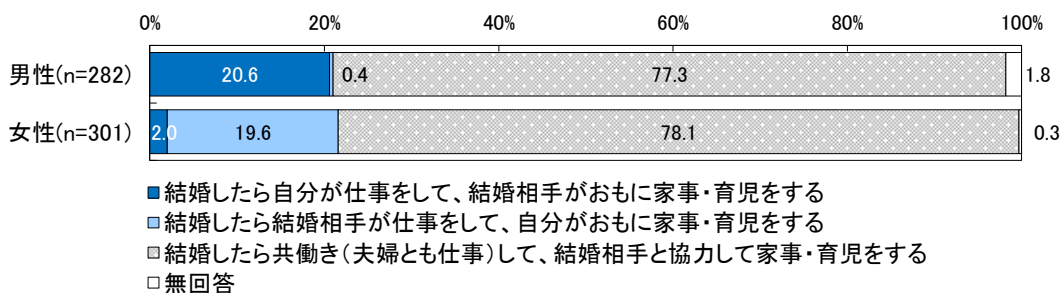
②：結婚したいと思う年齢

「30～34歳」が最多で44.7%、「25歳～29歳」が34.9%



③：結婚した後の仕事について

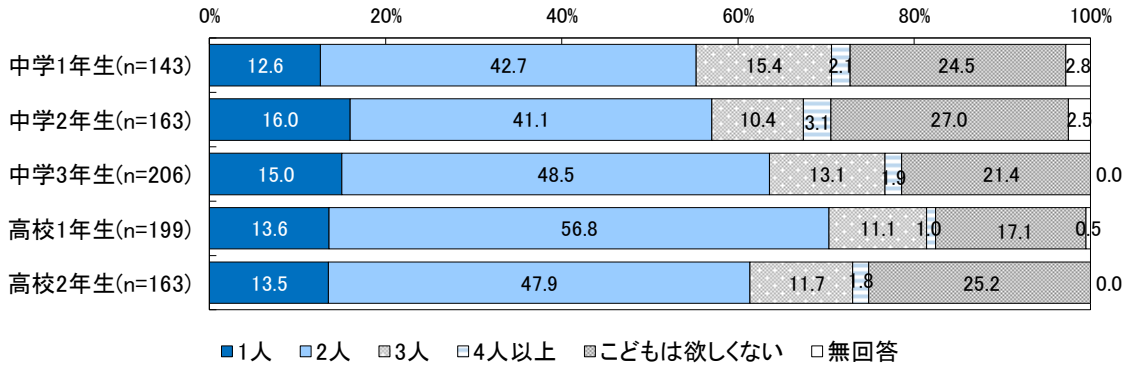
「共働きして、結婚相手と協力して家事・育児をする」を希望 男女とも約80%



(5) こどもをもつことについて

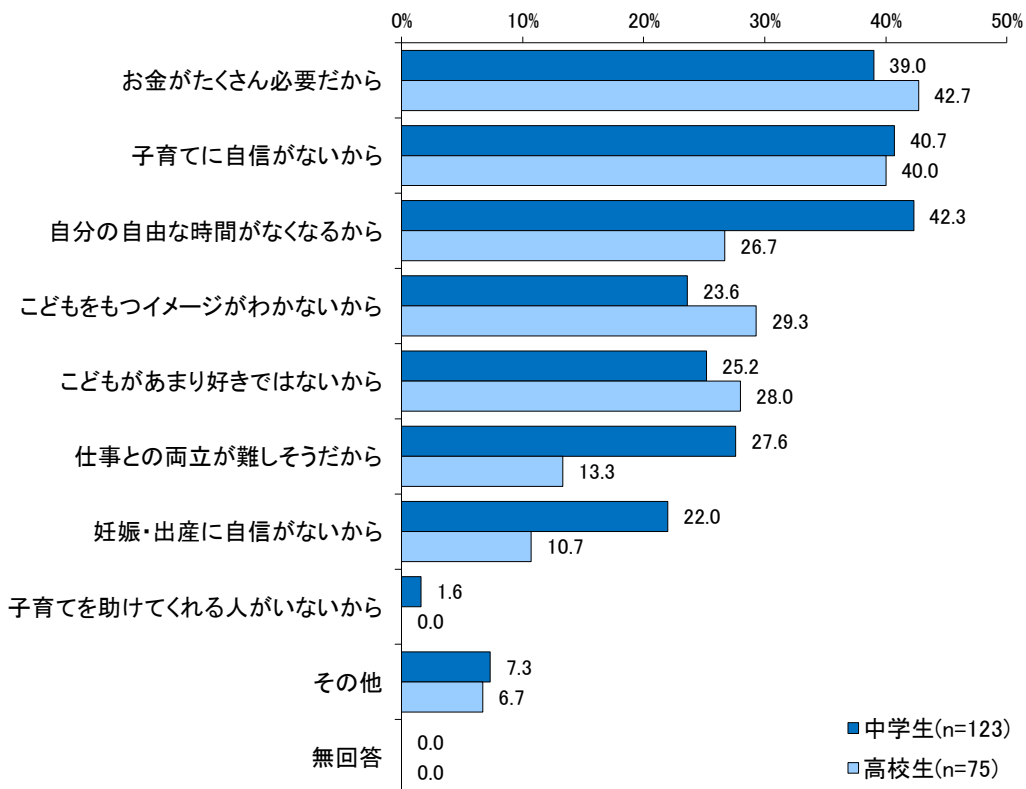
①：将来こどもをもちたいか。何人が理想か

学年別にみるといずれも「2人」が最多で4割から5割
 「こどもは欲しくない」は高校1年生を除き、2割を超えている



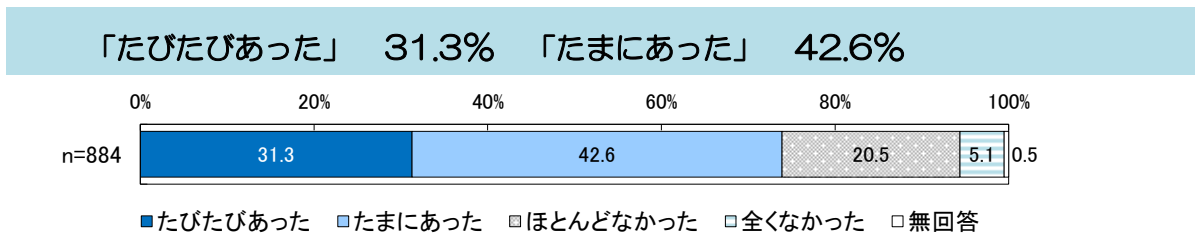
②：こどもは欲しくない理由（「こどもは欲しくない」と回答した人のみ）

中学生・高校生とも「お金がたくさん必要」「子育てに自信がない」が約4割
 中学生は「自由な時間がなくなる」が42.3%で高校生より15.6ポイント高い



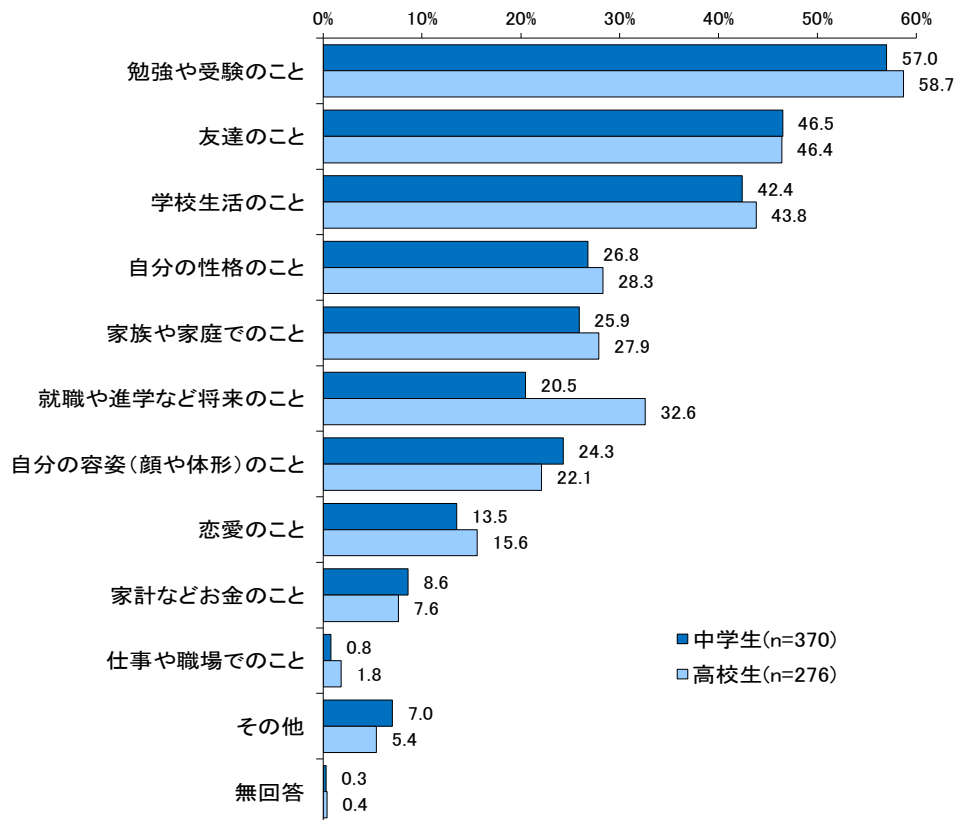
(6) つらかったことや悩みについて

①：つらかったことや悩んだことはあるか

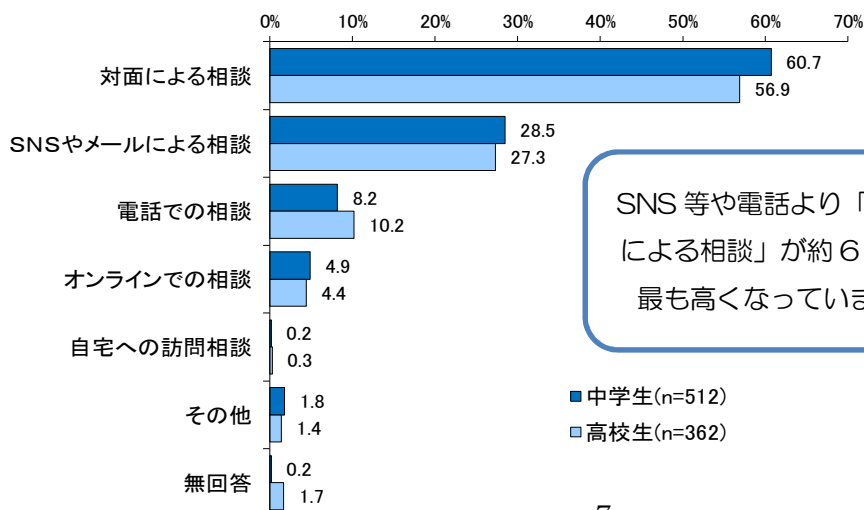


②：つらかったことや悩みの内容

中学生・高校生とも「勉強や受験」「友達」「学校生活」が上位3位
 高校生では「就職や進学など将来のこと」と回答した人が32.6%



③：最も相談しやすい方法



SNS等や電話より「対面による相談」が約6割で最も高くなっています



岡山市若者の意識に関するアンケート調査結果の概要

1 調査概要

(1) 調査目的

岡山市の将来を担う若者の実態やニーズを把握し、若者支援に関する施策の参考とするため実施しました。

(2) 抽出方法

市内に居住する 18 歳から 39 歳の市民の中から無作為抽出

(3) 調査及び回収方法

郵送による配布

郵送またはインターネットによる回収

(4) 調査対象

市内に居住する 18 歳から 39 歳の市民 2,000 人

(5) 調査期間

令和 6 年 1 月 23 日～令和 6 年 2 月 13 日

(6) 回収結果

有効回収数 693 人

回収率 34.7% (うちインターネットによる回収 19.9%)

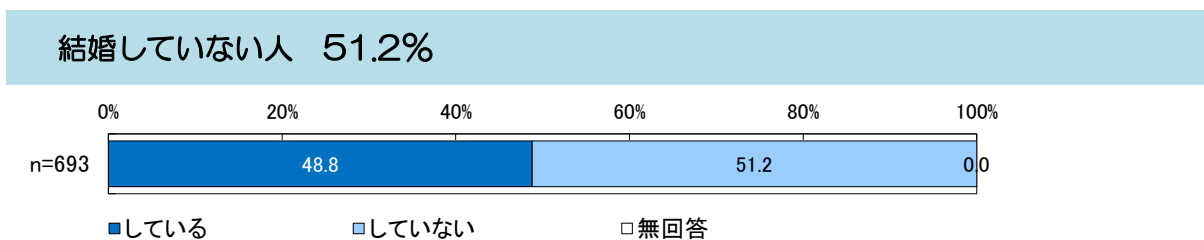
【年齢別の結果】

年齢	回収数	割合
18 歳～19 歳	52	7.5%
20 歳～24 歳	106	15.3%
25 歳～29 歳	152	21.9%
30 歳～34 歳	187	27.0%
35 歳～39 歳	194	28.0%
無回答	2	0.3%
合計	693	100%

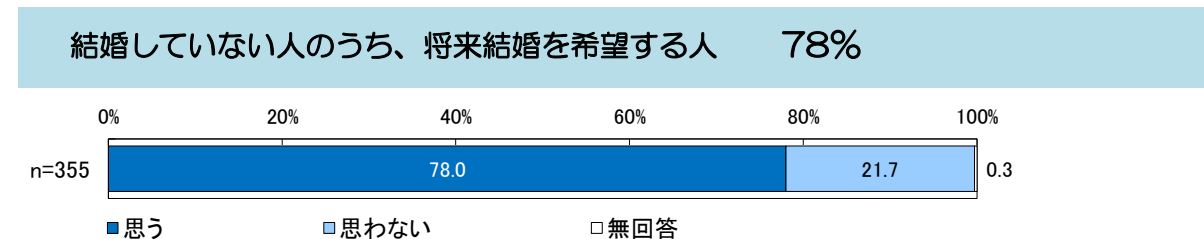
2 調査結果

(1) 結婚について

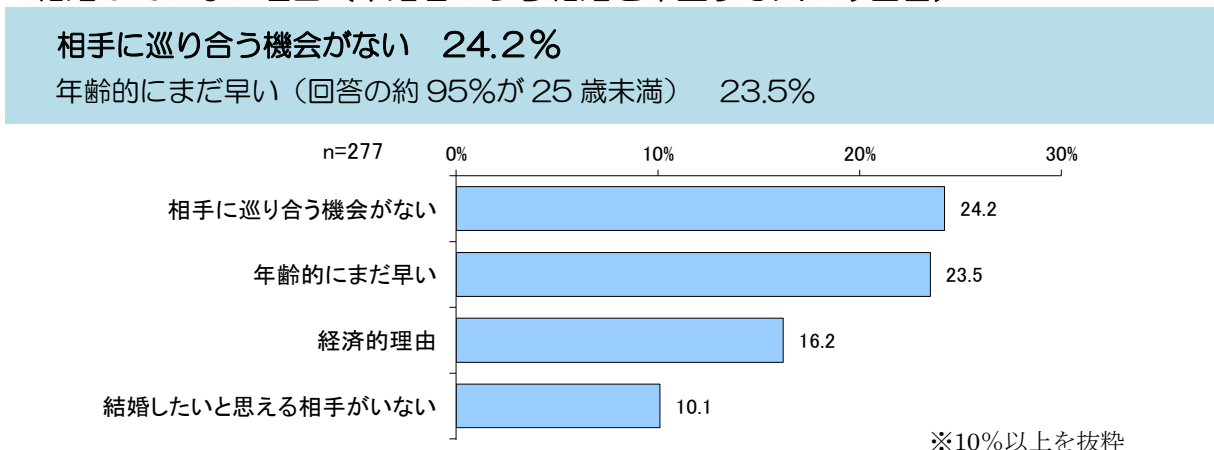
① 現在結婚しているか



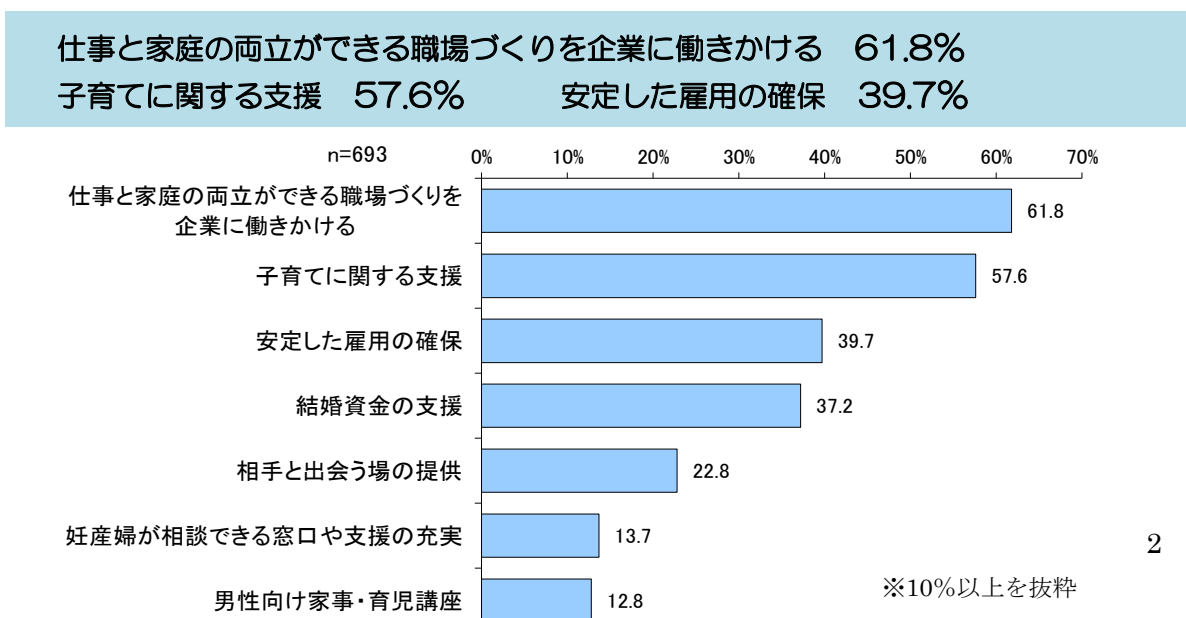
② 結婚していない人の結婚への希望（将来結婚したいか）



③ 結婚していない理由（未婚者のうち結婚を希望する人のみ回答）



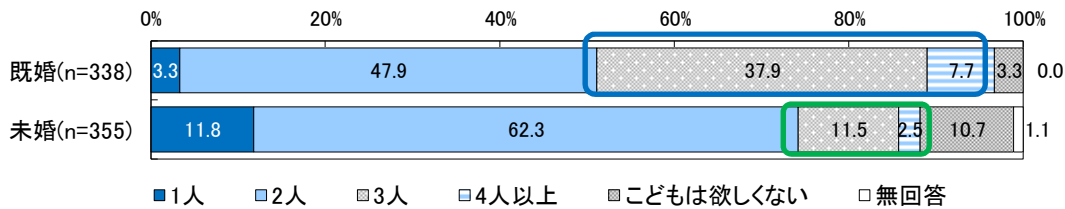
④ 結婚するうえで必要と思う支援



(2) こどもをもつことについて

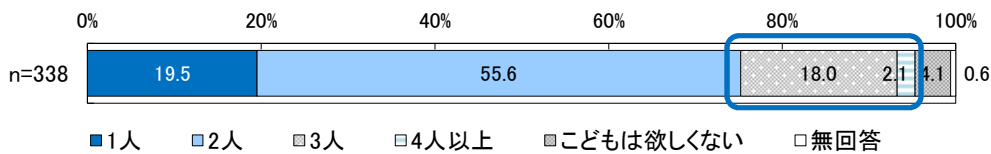
① こどもをもつなら何人が理想か（未婚・既婚にかかわらず理想とする数）

未既婚別にみると『3人以上』は既婚(45.6%)が未婚(14%)より31.6ポイント高い
「こどもは欲しくない」は未婚(10.7%)が既婚(3.3%)より7.4ポイント高い



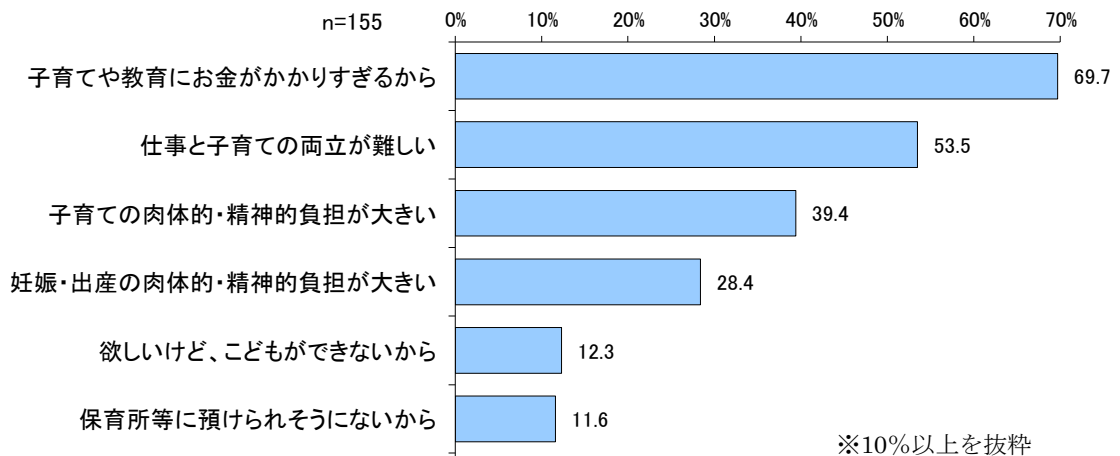
② 理想とは別に現実に何人こどもをもつ予定か（結婚している人のみ回答）

「2人」が最多で55.6%
既婚者の理想『3人以上』45.6%に対して現実の予定は20.1%



③ 理想より現実に予定している数が少ない理由（理想より現実の予定が少ない人のみ回答）

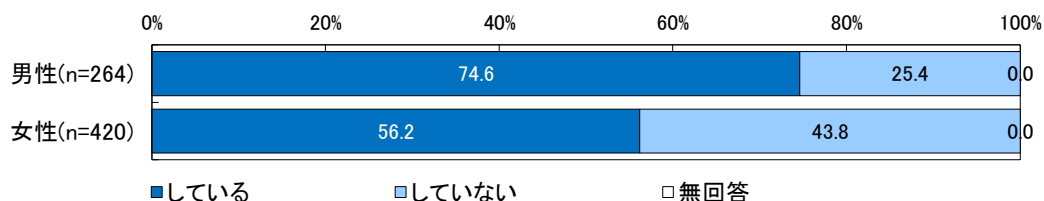
「お金がかかりすぎる」が最多で69.7%。「仕事と子育ての両立が難しい」(53.5%)
「肉体的・精神的負担が大きい」(39.4%)が続いている



(3) 仕事・経済面について

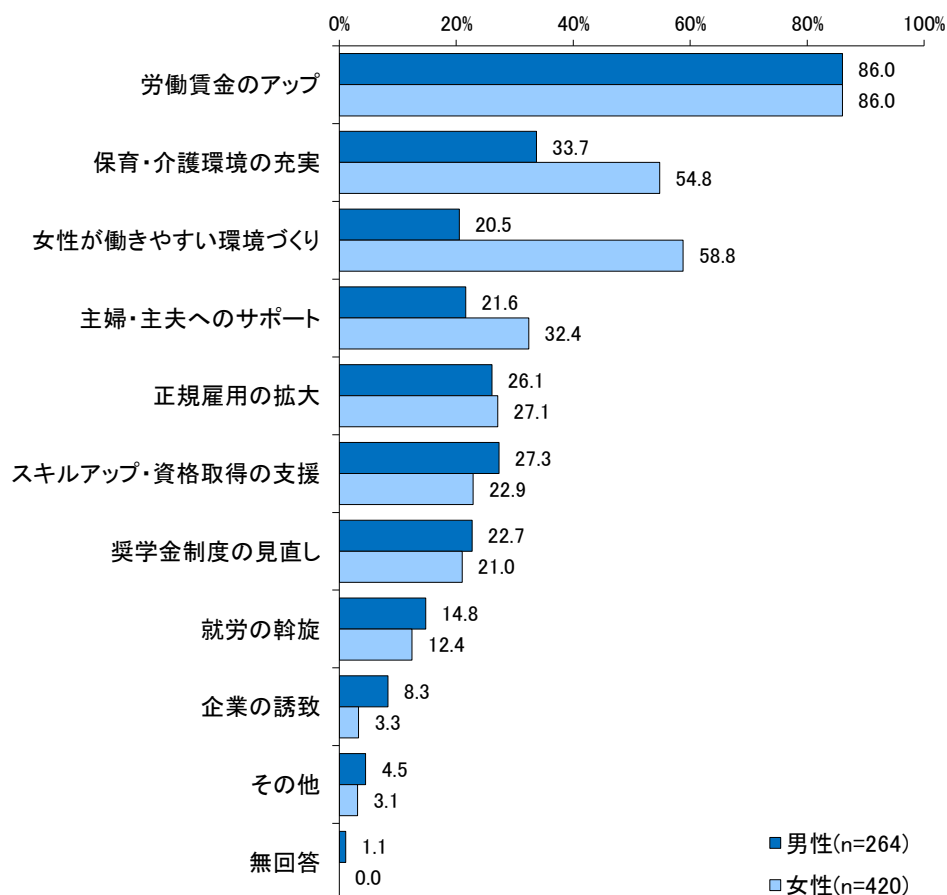
① 経済的に自立しているか

自立「していない」 男性 25.4% 女性 43.8%



② 仕事や経済面で必要と思う支援

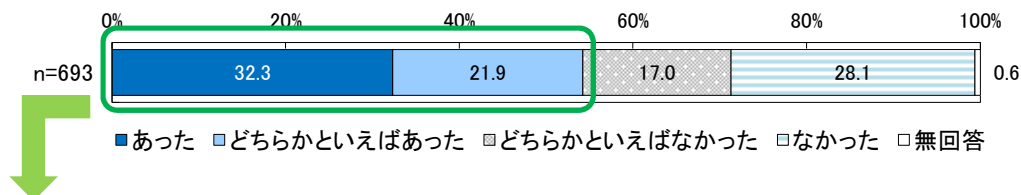
男女ともに「労働賃金のアップ」(86.0%)が最多
 「保育・介護環境の充実」(女性 54.8%)「女性が働きやすい環境づくり」
 (女性 58.8%)の男女差が特に大きい



(4) 困難経験について

① 社会生活や日常生活に影響が出るようなつらい経験があるか

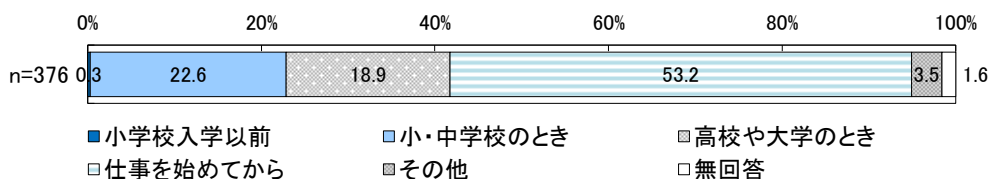
『あった』（「あった」「どちらかといえばあった」をあわせた数） 54.2%



つらい経験の原因 「仕事・職場でのこと」(36.4%) が最多
「学校でのこと」(21.5%) 「家族・家庭でのこと」(21.0%)

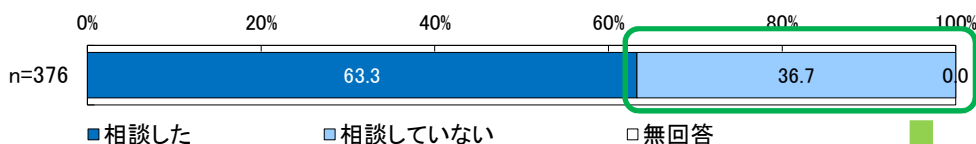
② つらい経験のうち、最もつらい経験はいつあったか

「仕事を始めてから」 53.2%



③ つらい経験をしたとき誰かに相談したか

「相談していない」 36.7%

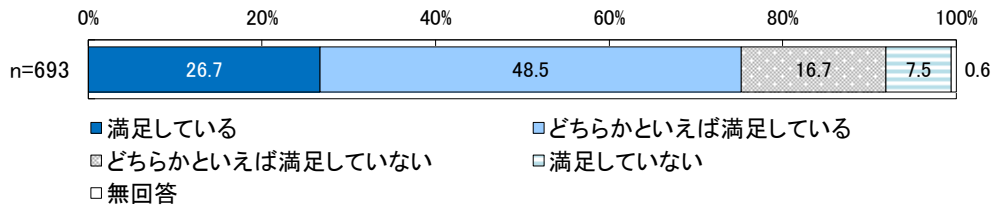


相談しなかった理由 「相談してもどうにもならないと思った」(50.7%) が最多
「相談できる人がいなかった」(18.8%) 「相談しなくなかった」(12.3%) が続いている

(5) 意識、人とのつながりについて

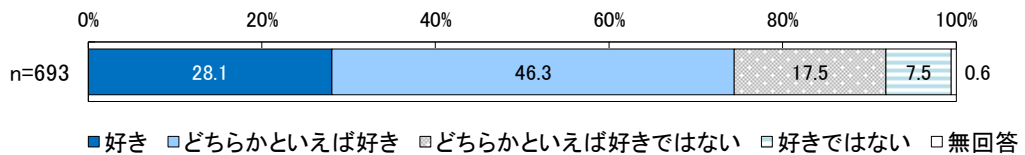
① 今の生活に満足しているか

『満足している』（「満足している」「どちらかといえば満足している」をあわせた数） 75.2%
 『満足していない』（「満足していない」「どちらかといえば満足していない」をあわせた数） 24.2%



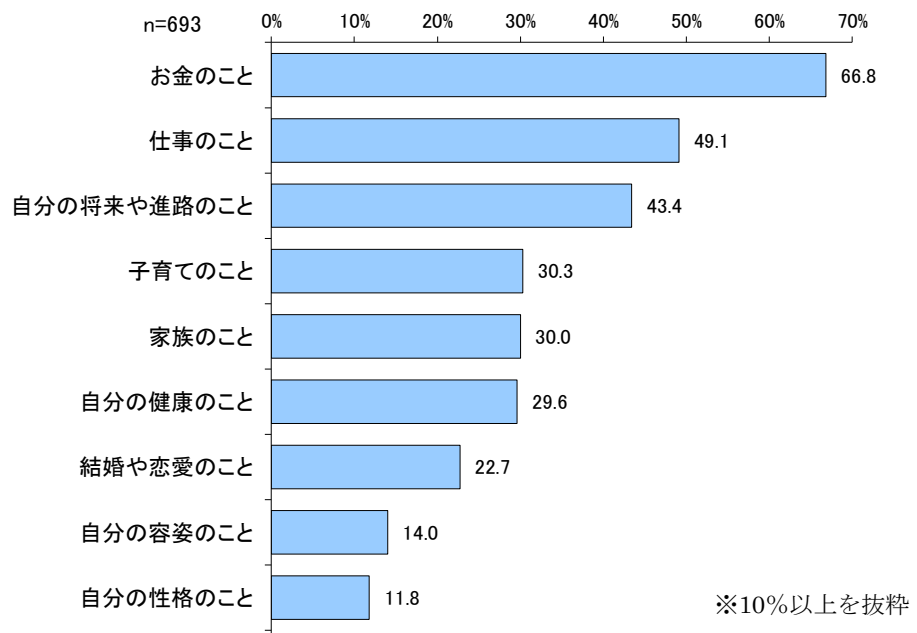
② 今の自分のことが好きか

『好き』（「好き」「どちらかといえば好き」をあわせた数） 74.4%
 『好きではない』（「好きではない」「どちらかといえば好きではない」をあわせた数） 25.0%



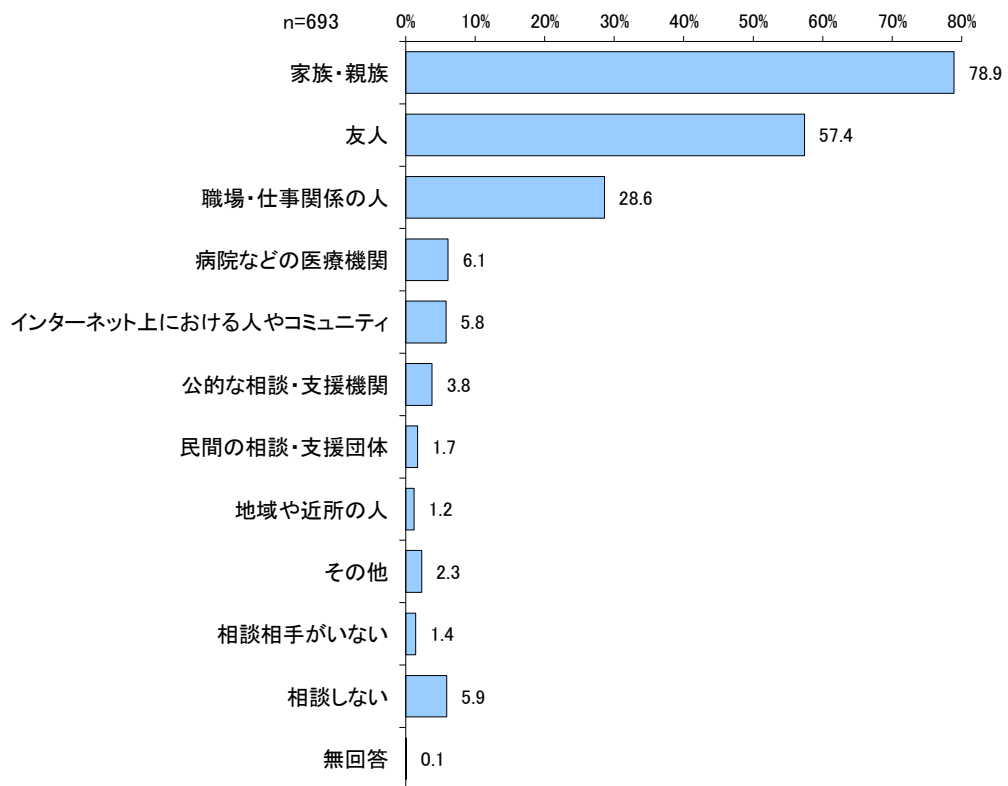
③ 今、悩んだり、心配したりしていることは何か

「お金のこと」(66.8%) が最多
 「仕事のこと」(49.1%) 「自分の将来や進路のこと」(43.4%) が続いている



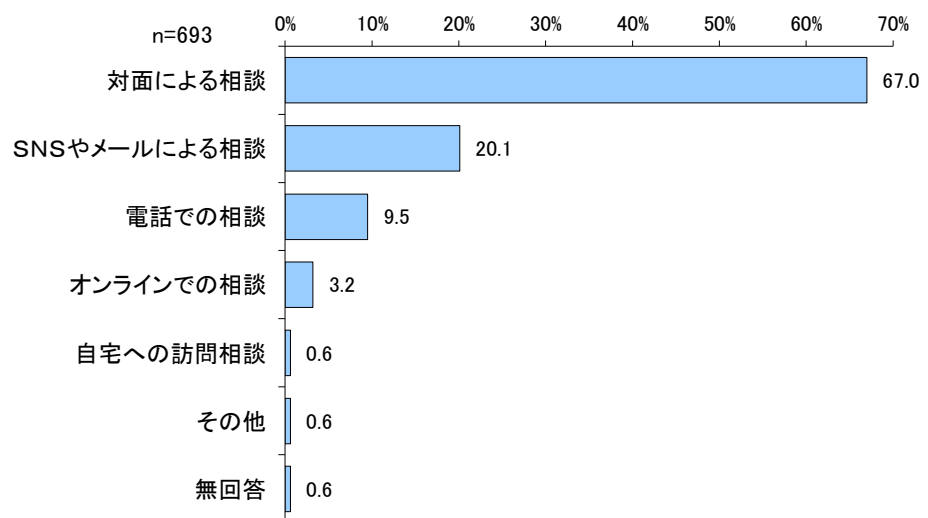
④ 悩みや心配なことがあるとき誰に相談するか

「家族・親族」(78.9%) が最多
 「友人」(57.4%) 「職場・仕事関係の人」(28.6%) が続いている



⑤ 相談するときに最も相談しやすい方法は何か

「対面による相談」(67.0%) が最多
 「SNSやメールによる相談」(20.1%) 「電話での相談」(9.5%) が続いている



岡山市子ども・子育て支援に関するアンケート調査結果の概要

1 調査概要

(1) 調査目的

岡山市の子育てを行う世帯の現在の幼児教育・保育事業の利用状況や今後の利用希望、子育てについての要望等を把握し、岡山市子ども・子育て支援事業計画等の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 抽出方法

市内に居住する0歳から小学校6年生までの児童がいる家庭の中から無作為抽出

(3) 調査方法及び回収方法

郵送による配布

郵送またはインターネットによる回収

(4) 調査対象

市内に居住する0歳から小学校6年生までの児童がいる家庭
5,000 世帯

(5) 調査期間

令和6年1月23日～令和6年2月13日

(6) 回収結果

有効回収数 2,633 世帯

回収率 52.7% (うちインターネットによる回収率22.9%)

【子どもの年齢別】

年齢	全体		就学前児童		小学校児童	
	数	割合	数	割合	数	割合
0歳	307	11.7%	307	24.2%	-	-
1・2歳	373	14.2%	373	29.3%	-	-
3～5歳	588	22.3%	588	46.3%	-	-
6～8歳	712	27.0%	-	-	712	52.3%
9～11歳	641	24.3%	-	-	641	47.1%
無回答	12	0.5%	3	0.2%	8	0.6%
合計	2,633	100.0%	1,271	100.0%	1,361	100.0%

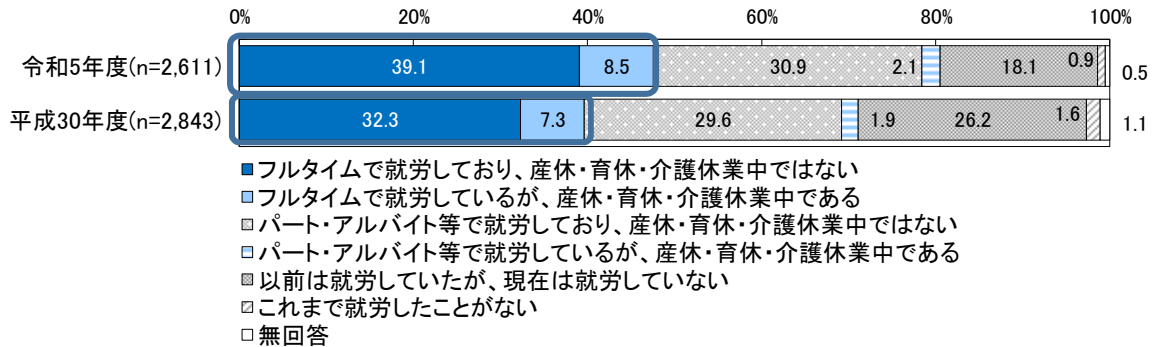
※無回答全体件数は、就学前児童・小学校児童の判断ができないもの1件を含む

2 調査結果

(1) 保護者の就労状況や家事・子育ての状況

① 母親の現在の就労状況

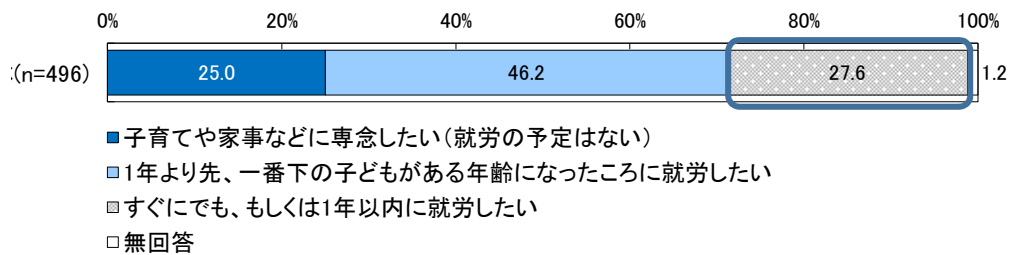
フルタイム就労者が増加 H30年度よりも、8.0ポイント増



② 現在就労していない母親の今後の就労希望

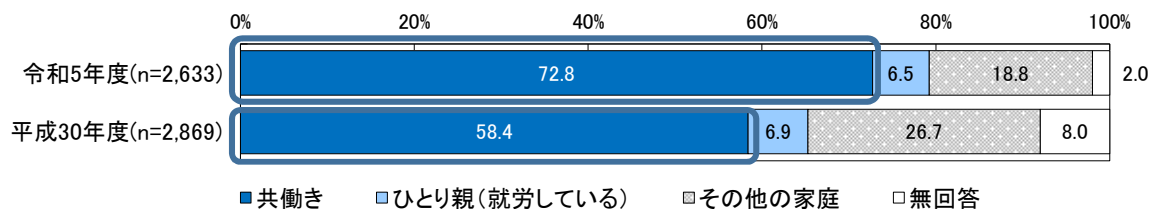
※現在は就労していない、就労したことがない人のみ回答

「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」 27.6%



③ 両親の共働きの状況

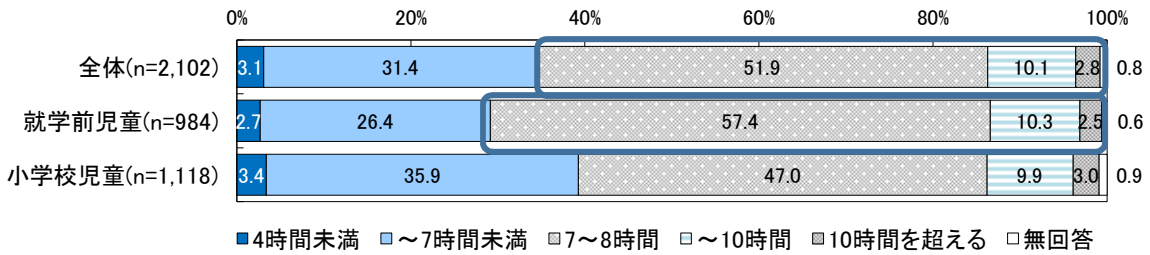
共働き家庭が増加 H30年度よりも、14.4ポイント増



④ 就労時間

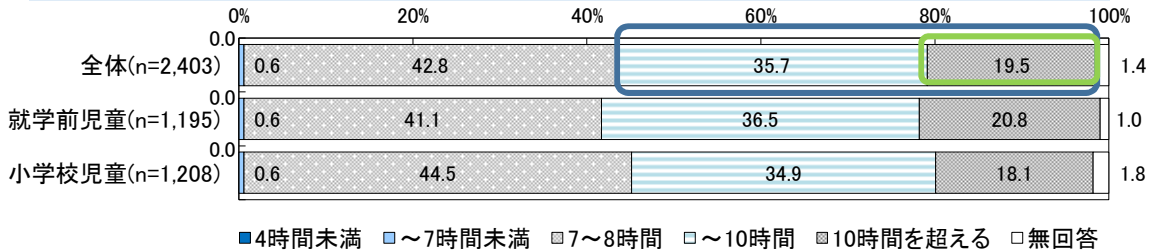
≪ 1日当たりの就労時間（母親） ≫

『7時間以上』が全体で6割以上、就学前児童では7割



≪ 1日当たりの就労時間（父親） ≫

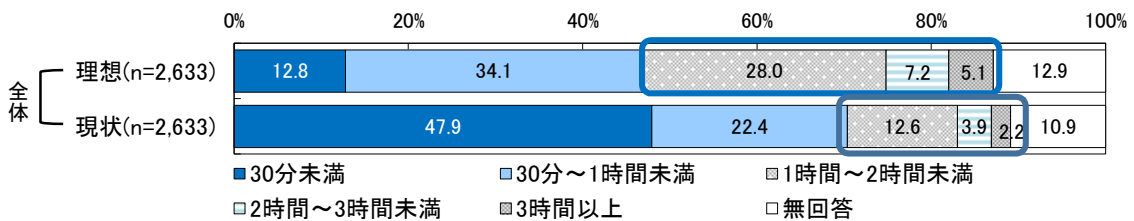
『8時間を超える』が全体で5割以上、うち「10時間超」が約2割



⑤ 男性養育者（父親等）の家事や子どもと関わる時間

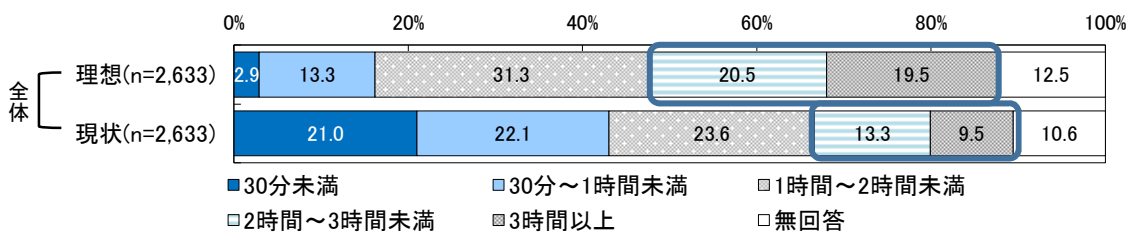
≪ 平日の家事等の時間の現状と理想（男性養育者） ≫

理想は『1時間以上』が約4割（40.3%）
現状は『1時間以上』が約2割（18.7%）



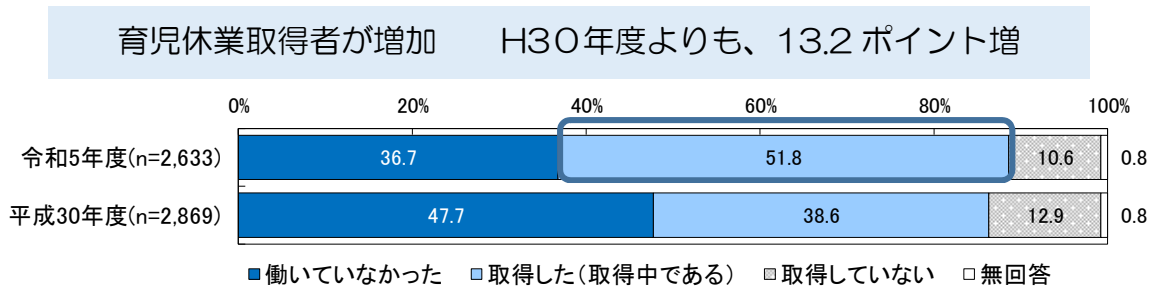
≪ 平日に子どもと関わる時間の現状と理想（男性養育者） ≫

理想は『2時間以上』が4割 現状は『2時間以上』が約2割

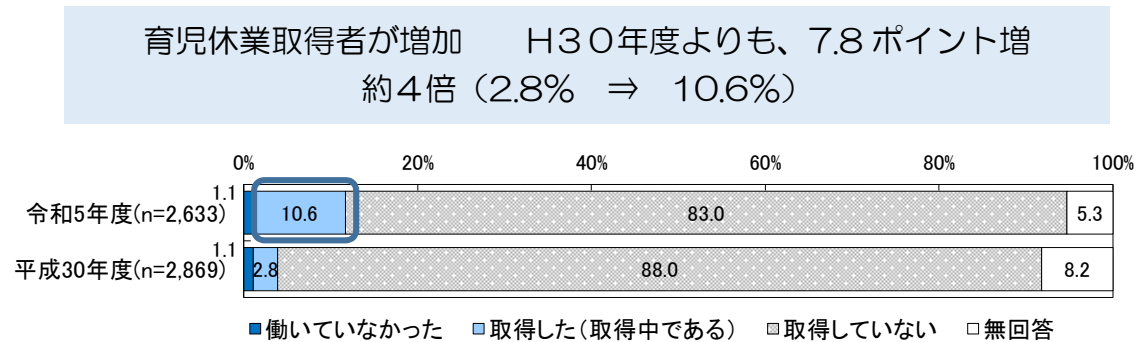


(2) 育児休業取得状況について

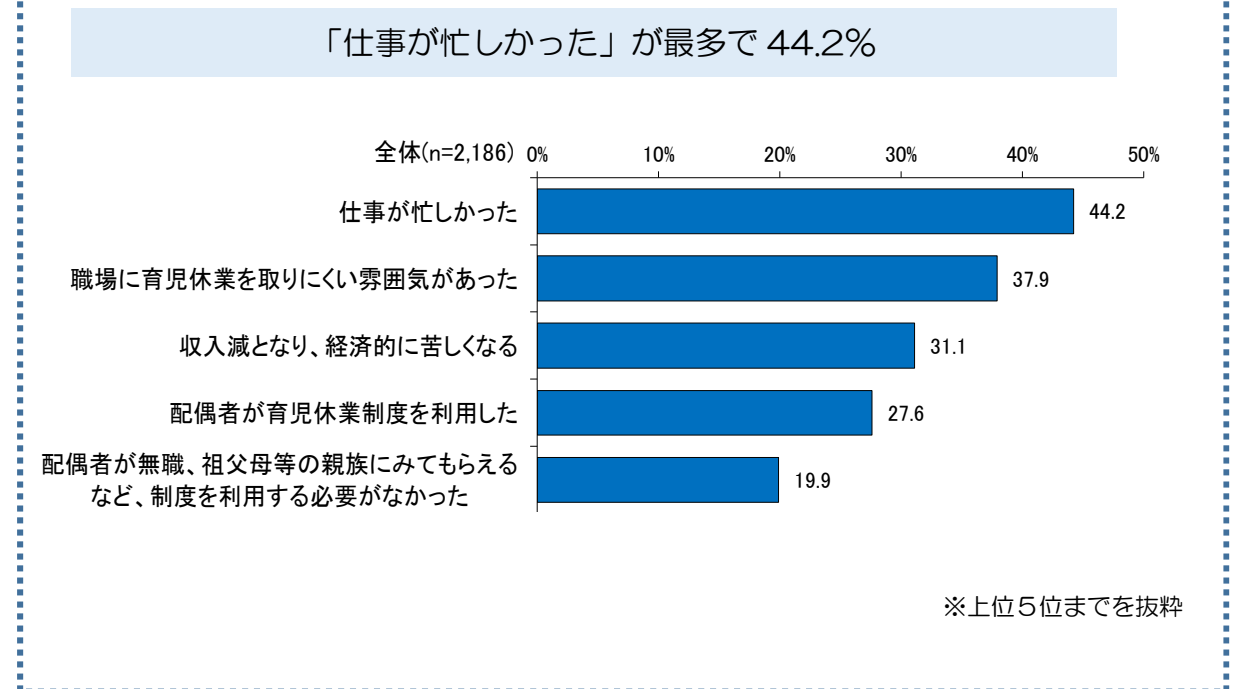
① 母親の育児休業取得状況



② 父親の育児休業取得状況

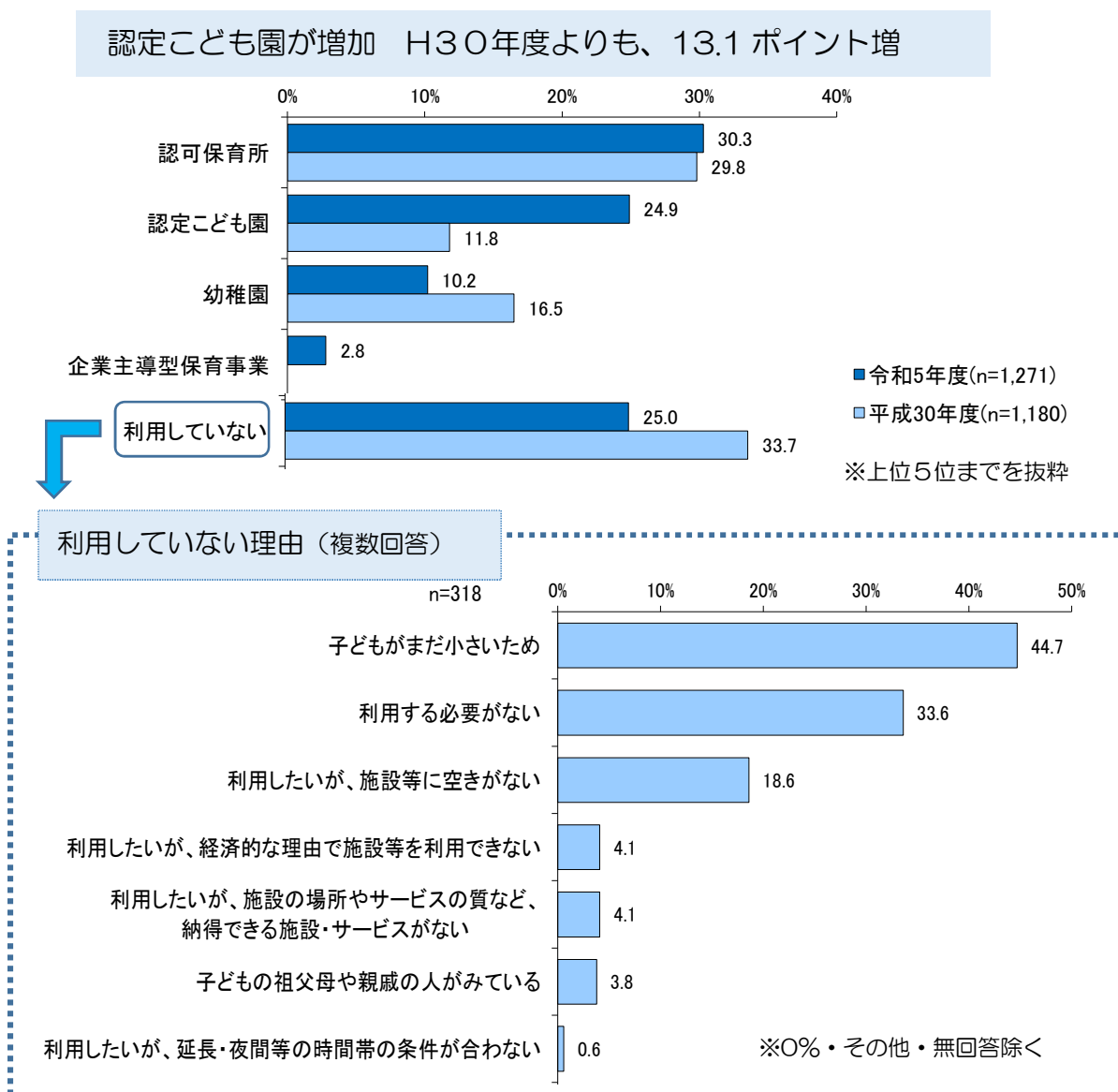


父親が育児休業を取得していない理由(複数回答)



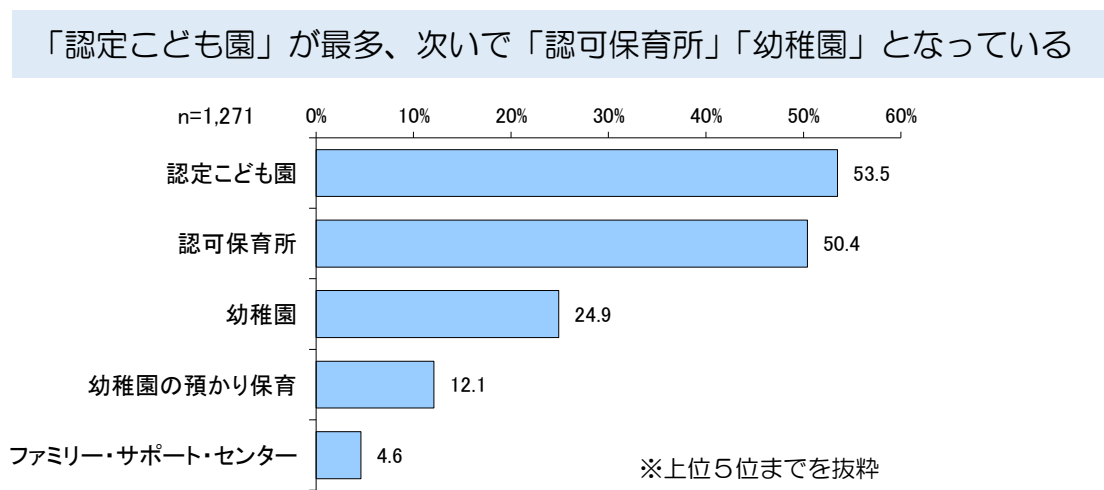
(3) 定期的な幼稚園・保育施設等の利用状況について

① 定期的な幼稚園・保育施設等の利用状況（複数回答）



② 今後、定期的にご利用したい事業

※現在の利用有無にかかわらず、今後の利用希望を回答(複数回答)

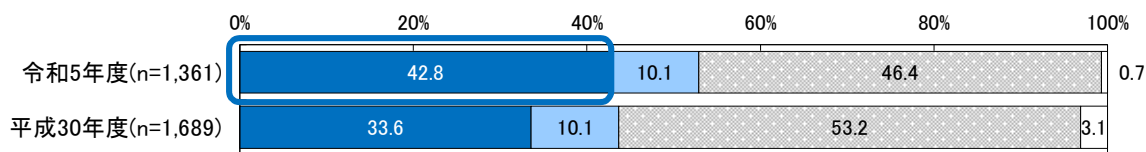


(4) 放課後児童クラブの利用について

現在の状況 (小学校児童)

① 子どもの世話をする人の有無

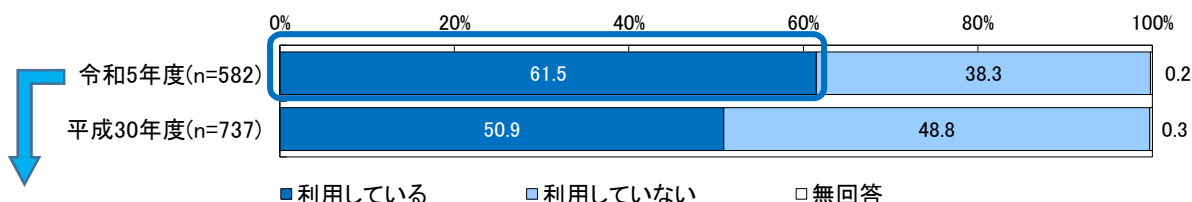
「平日に世話をする人がいない」42.8% H30年度よりも約10ポイント増



- 平日の放課後、長期休業中の平日ともに世話をする人がいない
- 長期休業中(夏休み、冬休み、春休み)の平日には世話をする人がいない
- 保護者等で世話をすることができる
- 無回答

② 利用状況 (「平日に世話をする人がいない」と回答した人のみ回答)

「利用している」61.5% H30年度よりも約10ポイント増

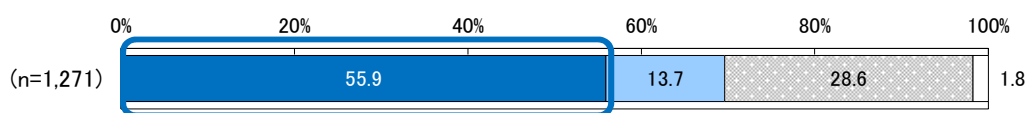


《学年別利用状況》
 1年生：85.6% 2年生：86.2% 3年生：76.9% 4～6年生：32.1%

今後の利用希望 (就学前児童)

③ 子どもの世話をする人の有無

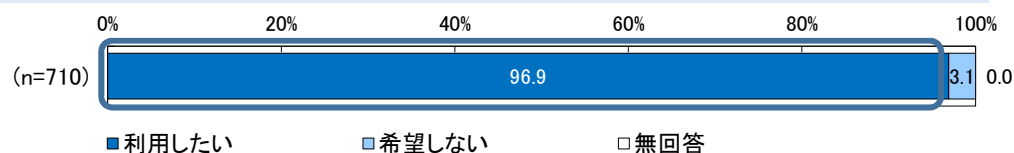
「平日に世話をする人がいない」55.9%
 「現在の状況 (小学生)」と比較して13.1ポイント高い



- 平日の放課後、長期休業中の平日ともに世話をする人がいない
- 長期休業中(夏休み、冬休み、春休み)の平日には世話をする人がいない
- 保護者等で世話をすることができる
- 無回答

④ 利用希望 (「平日に世話をする人がいない」と回答した人のみ回答)

「利用したい」96.9%



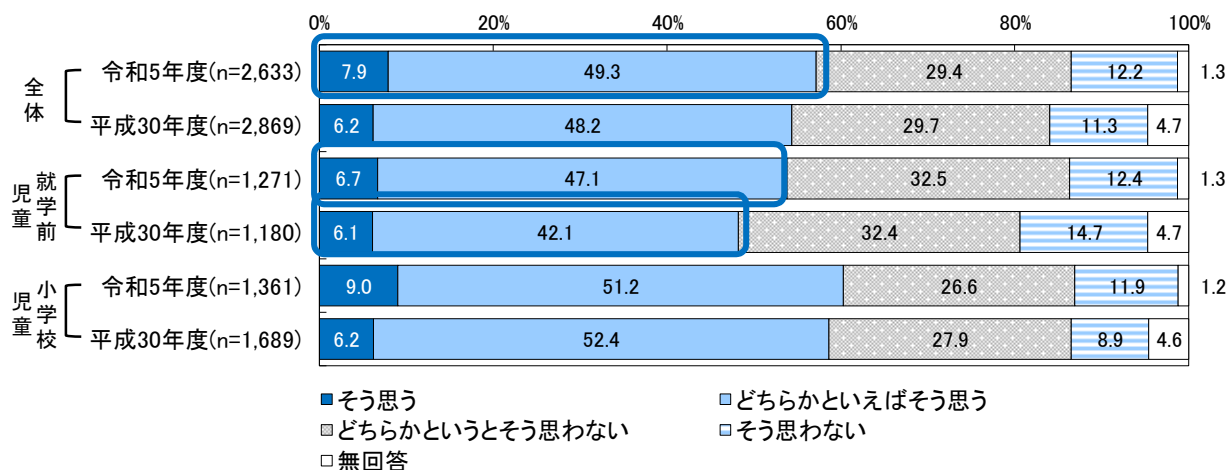
- 利用したい
- 希望しない
- 無回答

(5) 岡山市の子育てのしやすさの程度

① 岡山市の子育てのしやすさ

『子育てしやすいと思う』と回答した人が全体で57.2%
就学前児童でH30年度よりも、5.6ポイント増

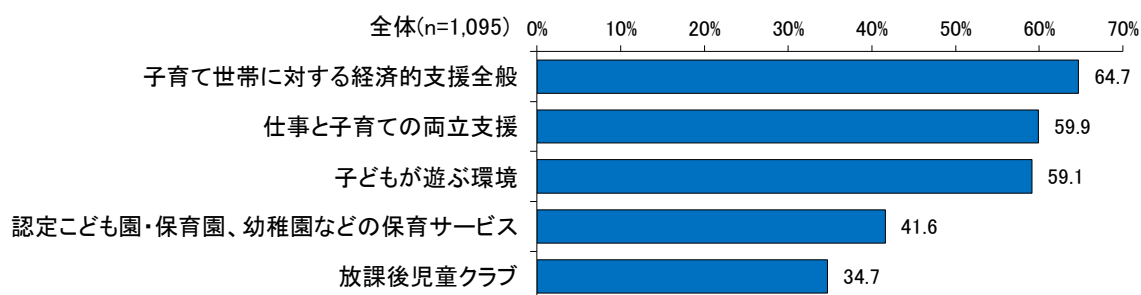
※『子育てしやすいと思う』(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)



② 子育てしやすいまちにするために充実が必要だと思うこと

※「子育てのしやすさ」に対して、「どちらかというと思わない」「思わない」とした人のみ回答(複数回答)

「子育て世帯に対する経済的支援全般」が 64.7%
「仕事と子育ての両立支援」が 59.9%
「子どもが遊ぶ環境」が 59.1%

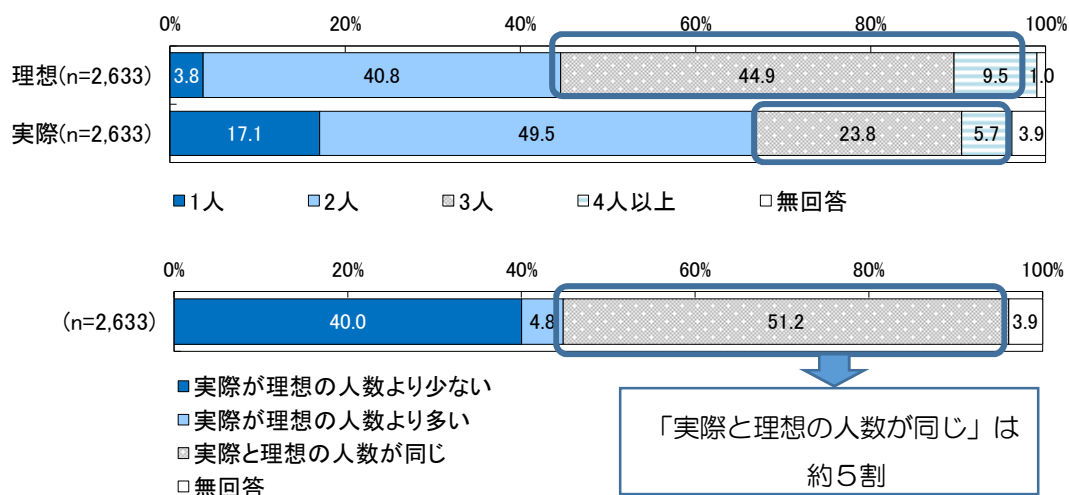


※上位5位までを抜粋

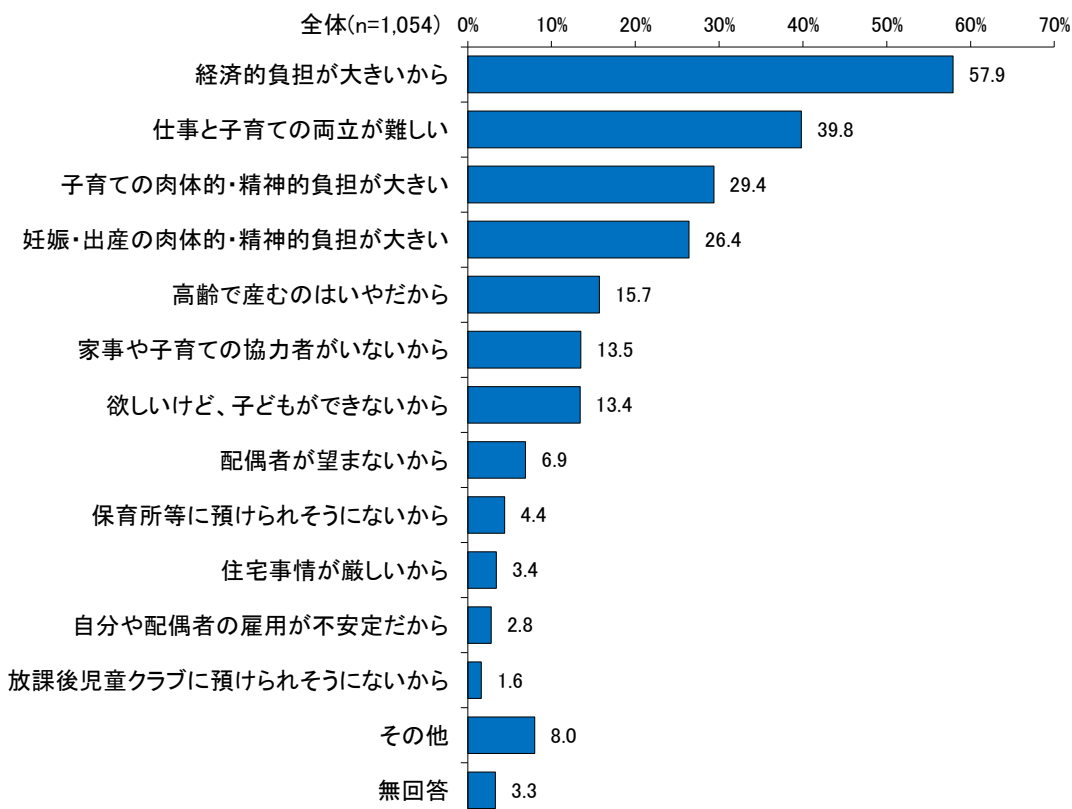
(6) 子どもをもつことについて

① 理想とする子どもの数と実際に予定している子どもの数

理想の子どもの数では『3人以上』と回答した割合が5割を超える(54.4%)が実際の予定では約3割(29.5%)になっている



実際に予定している子どもの数が少ない理由 (複数回答)



令和5年 岡山市子どもの生活実態調査結果の概要

1 調査概要

(1) 調査目的

子どもの将来が、貧困などその生まれ育った環境に左右されることのないよう、また、困難が世代を超えて連鎖することがないように必要な環境整備を図るための基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査対象

市内に居住する小学5年生とその保護者 2,500 世帯

市内に居住する中学2年生とその保護者 2,500 世帯

(3) 調査期間

令和5年11月17日～令和5年12月13日

(4) 回収結果

有効回収数 2,042 世帯

回収率 40.8% (うちインターネットによる回収12.9%)

【こどもの学年別】

学 年	回 収 数	割 合
小学5年生	1,055	51.7%
中学2年生	987	48.3%
不明・無回答	0	-
合 計	2,042	100.0%

回答内容から世帯状況の判定ができないものがあるため、全体の数値と各設問の世帯状況ごとの合計数が一致しない場合があります。

2 調査結果

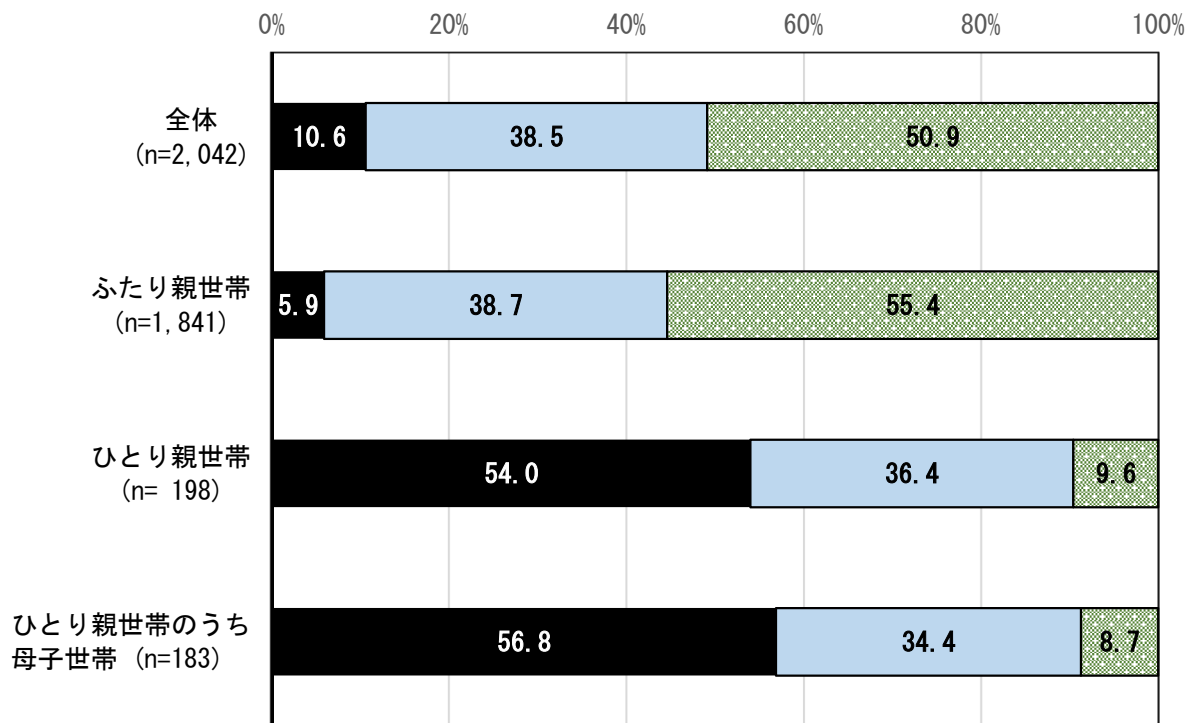
(1) 世帯の状況

世帯状況別にみた等価世帯収入の水準の割合

等価世帯収入の水準が中央値（325万円）の2分の1未満と回答した世帯

ふたり親世帯 5.9%

ひとり親世帯 54.0%



■ 中央値（325万円）の1/2未満 □ 中央値（325万円）の1/2以上 ▨ 中央値（325万円）以上
中央値未満

等価世帯収入とは

- ① 世帯収入が世帯の生活水準を正しく表すとは限らないため、各世帯の収入金額をそれぞれの世帯人数で調整した金額（等価世帯収入）を計算し比較しています。
- ② ①の計算の結果、等価世帯収入の中央値は325万円でした。

中央値… 数値を小さい方から順に並べたときに真ん中に位置する値。

平均値と異なり、極端な値の影響を受けません。

(2) 過去1年間に食料が買えなかった経験（保護者の回答）

買えなかった経験がある世帯の割合

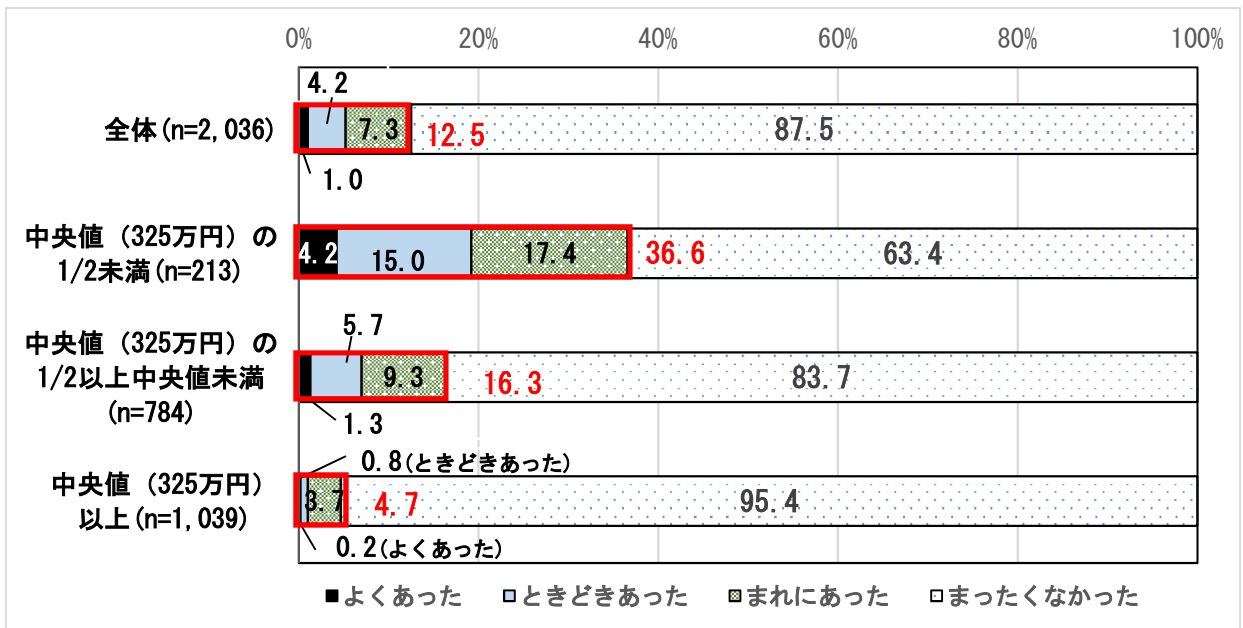
（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」をあわせた数）

全世帯の割合 12.5%

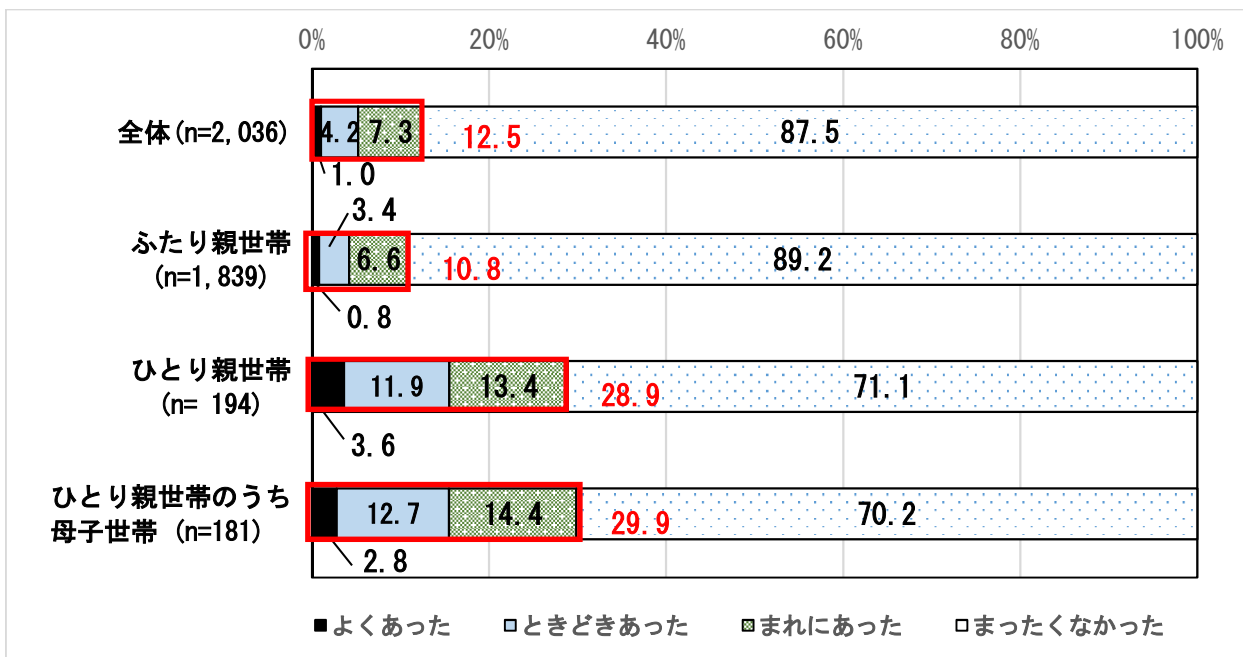
等価世帯収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満） 36.6%

ひとり親世帯 28.9%

【等価世帯収入の水準別】食料が買えなかった経験



【世帯状況別】食料が買えなかった経験



(3) 学校の授業の理解度（子どもの回答）

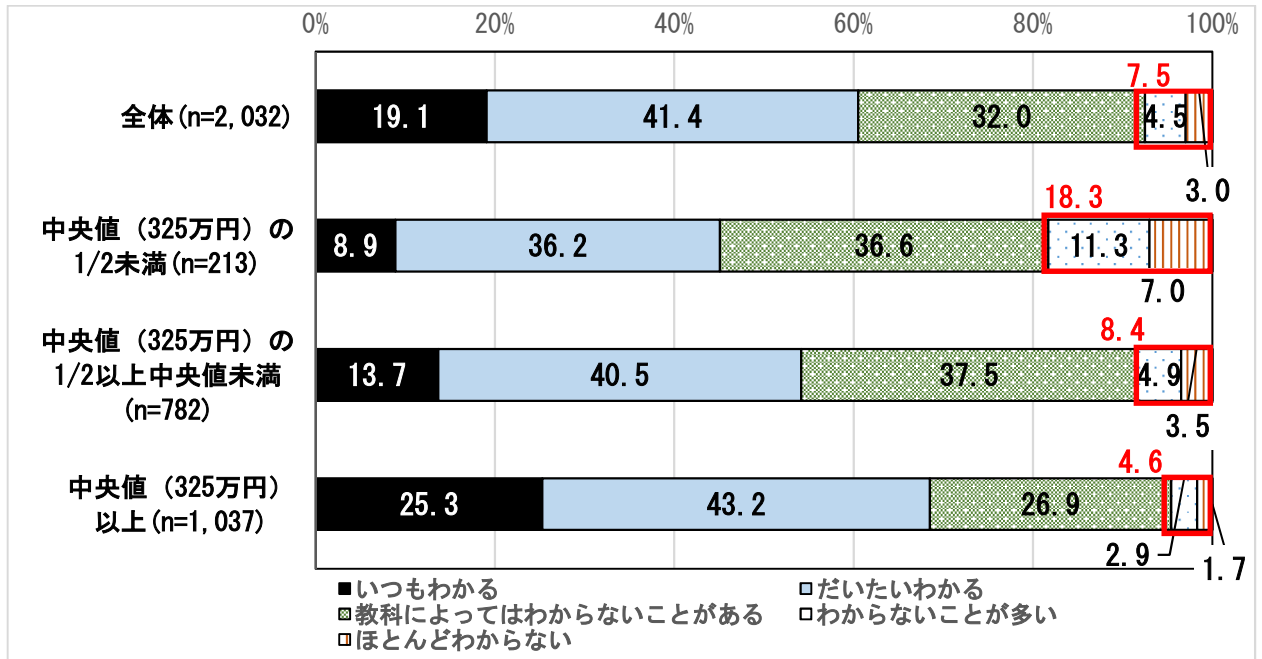
「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と回答した世帯の割合

全世帯の割合 7.5%

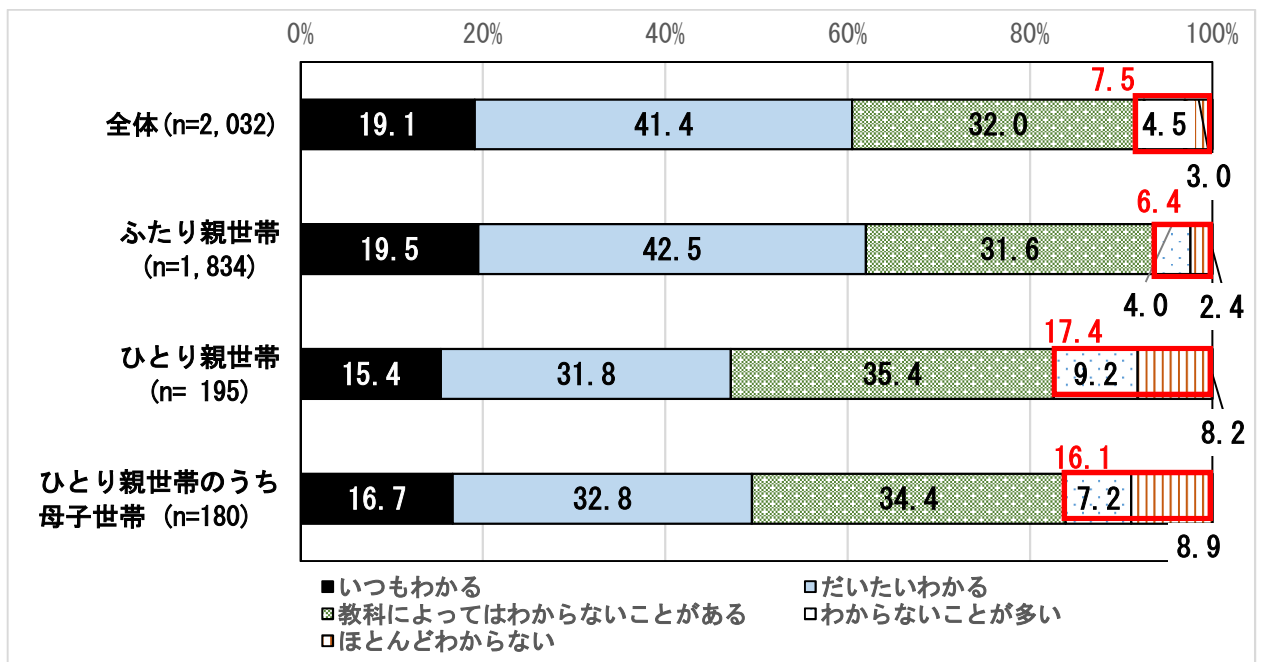
等価世帯収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満） 18.3%

ひとり親世帯 17.4%

【等価世帯収入の水準別】授業の理解状況



【世帯状況別】授業の理解状況



(4) 子どもの居場所（子ども食堂など）の利用希望（保護者の回答）

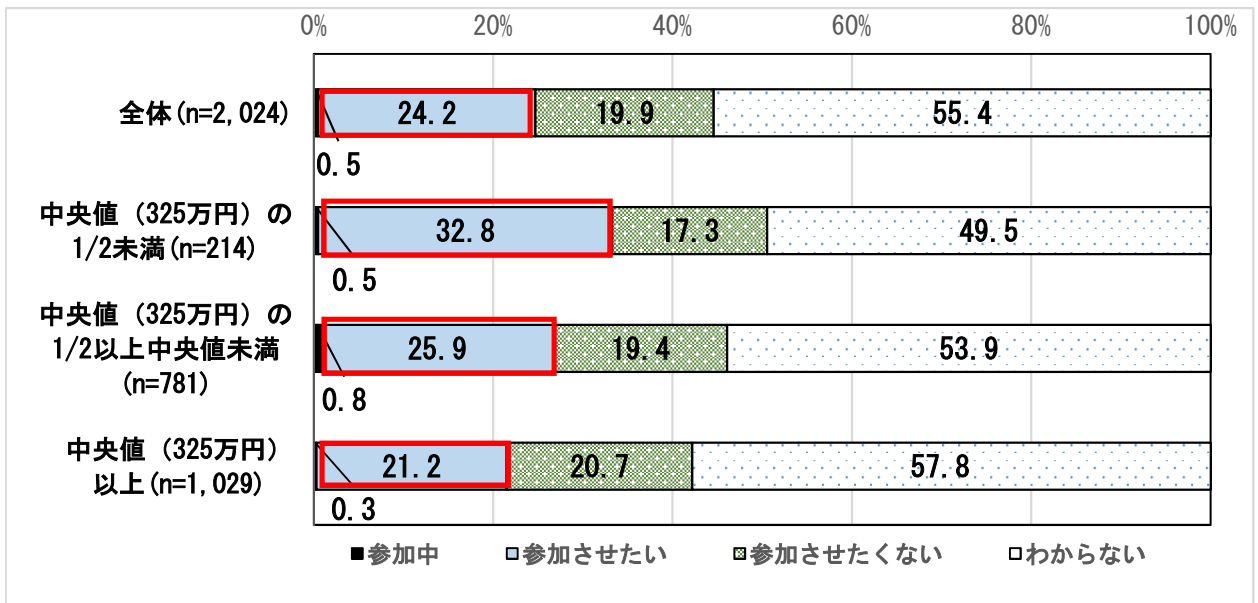
無料または低料金で子どもが安全に過ごせる居場所（子ども食堂など）に参加させたいと回答した割合

全世帯の割合 24.2%

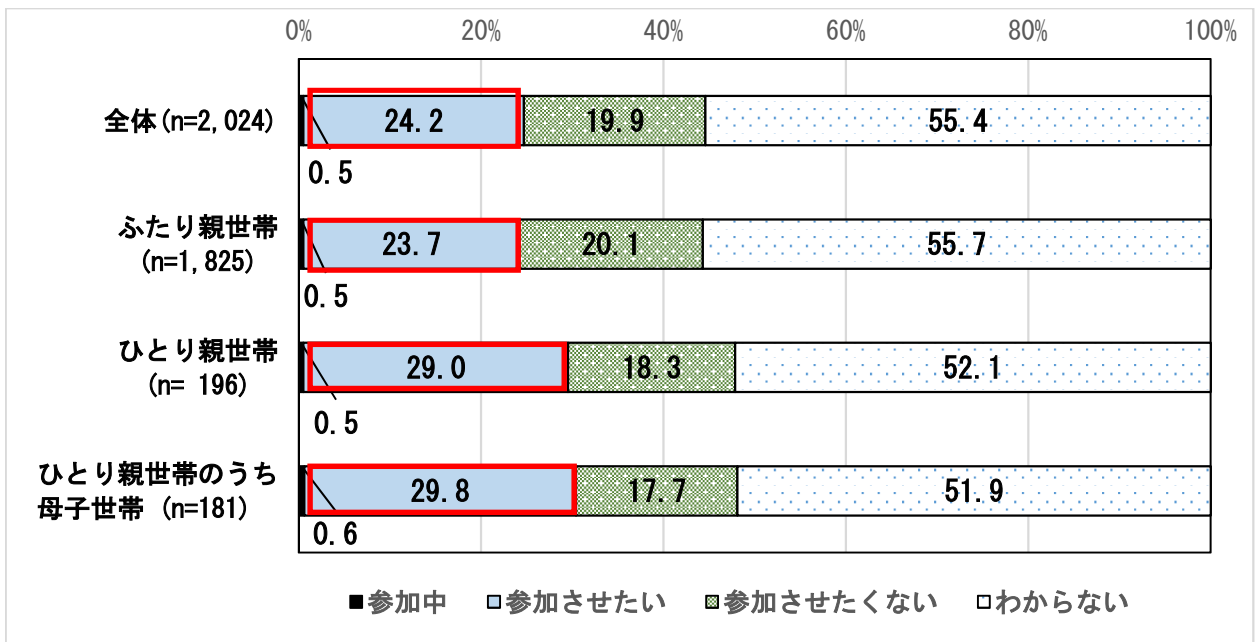
等価世帯収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満） 32.8%

ひとり親世帯 29.0%

【等価世帯収入の水準別】子どもの居場所（子ども食堂など）の利用希望



【世帯状況別】子どもの居場所（子ども食堂など）の利用希望



(5) ヤングケアラー（保護者の回答） 【複数回答あり】

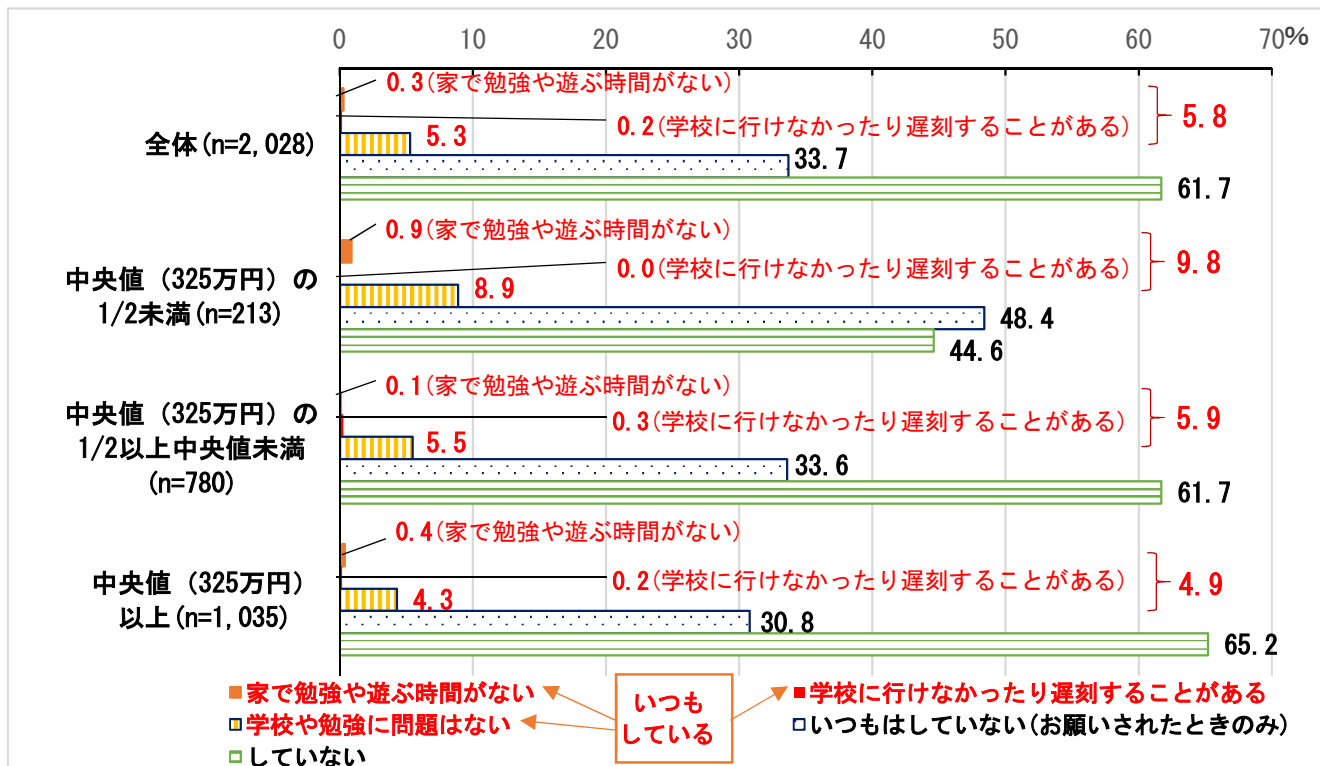
家族の世話は「いつもしている」と回答した割合

全世帯の割合 5.8%（うち「家で勉強・遊ぶ時間がない」「学校に行けなかつたり遅刻する」0.5%）

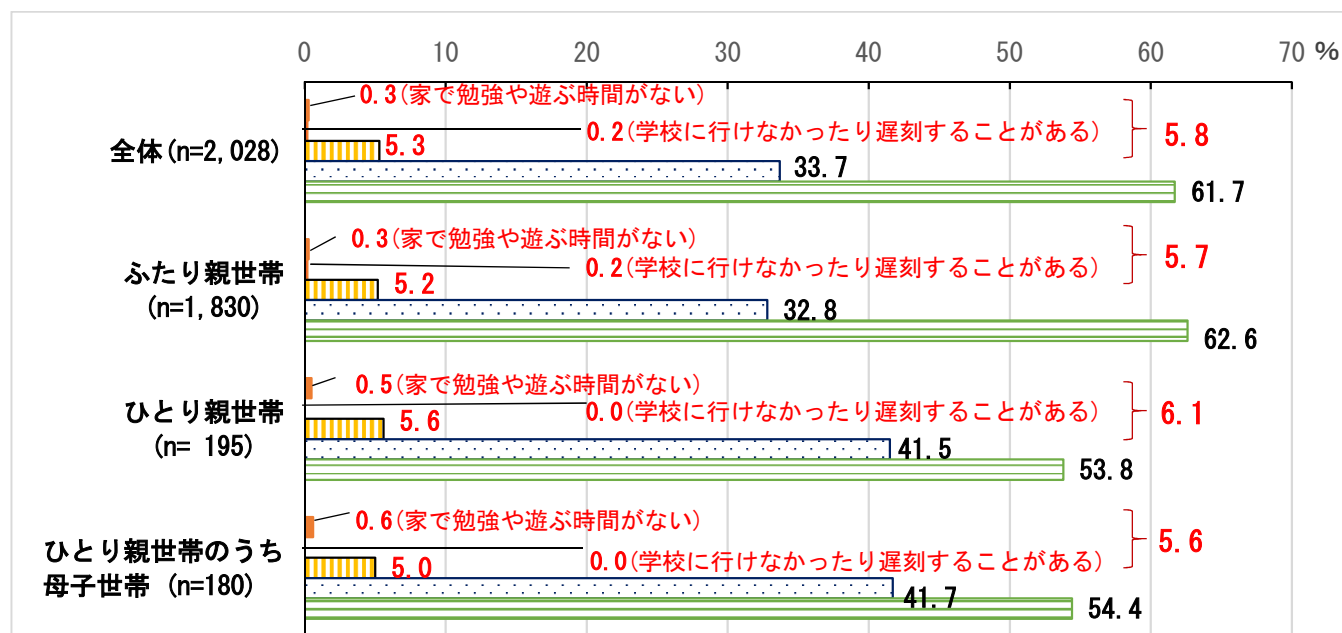
等価世帯収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満） 9.8%（0.9%）

ひとり親世帯 6.1%（0.5%）

【等価世帯収入の水準別】子どもが家族の世話をどれくらいしているか



【世帯状況別】子どもが家族の世話をどれくらいしているか

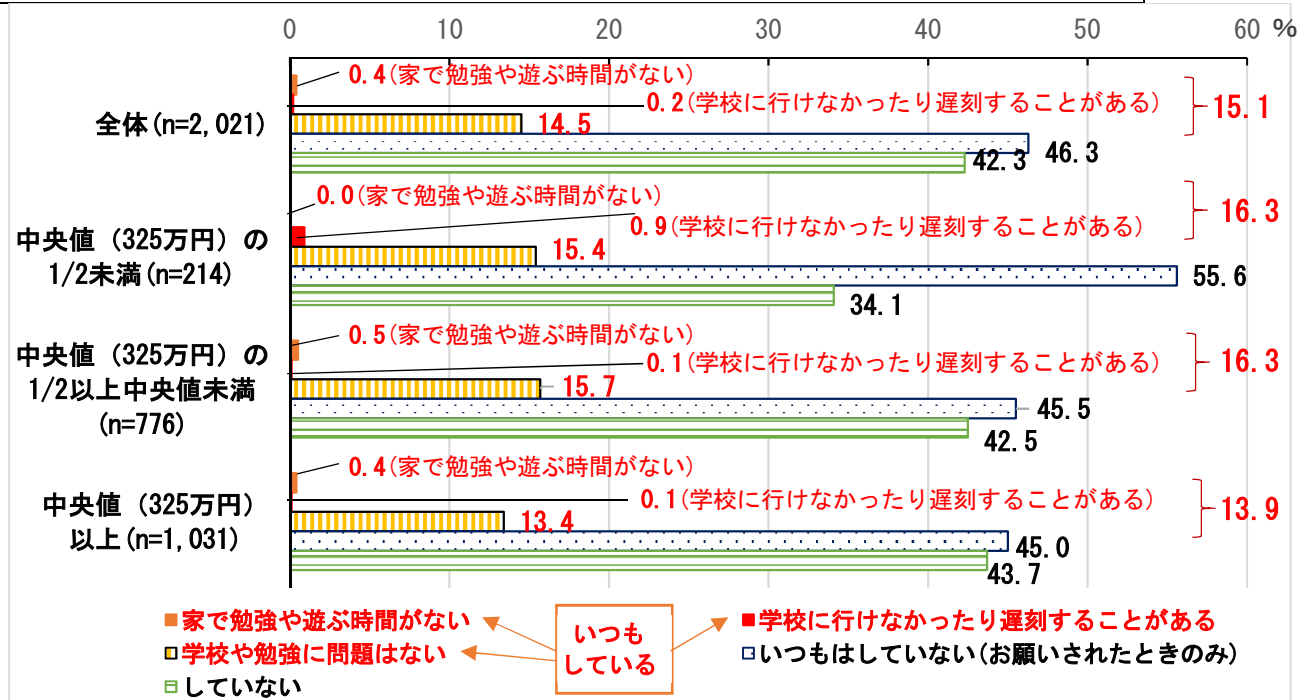


ヤングケアラー（子どもの回答） 【複数回答あり】

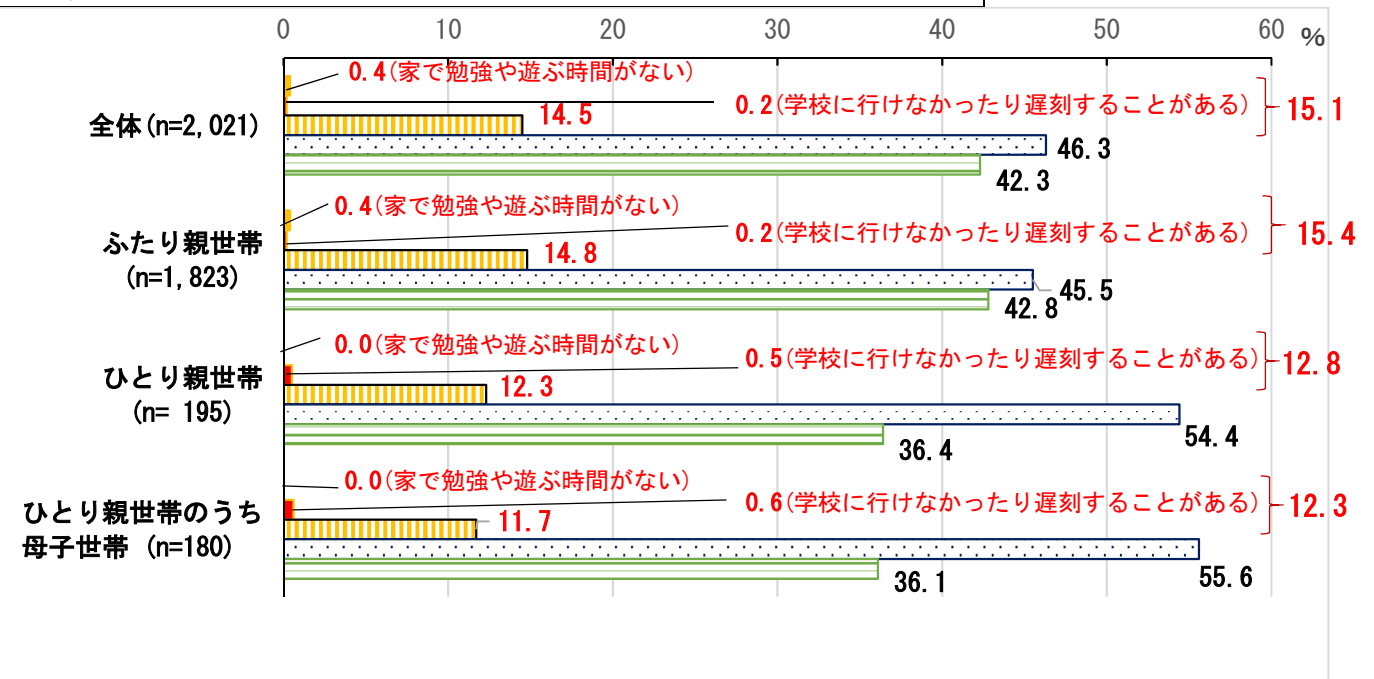
家族の世話は「いつもしている」と回答した割合

全世帯の割合 15.1%（うち「家で勉強・遊ぶ時間がない」「学校に行けなかつたり遅刻する」0.6%）
 等価世帯収入の水準が低い世帯（中央値の2分の1未満） 16.3%（0.9%）
 ひとり親世帯 12.8%（0.5%）

【等価世帯収入の水準別】子どもが家族の世話をどれくらいしているか








【世帯状況別】子どもが家族の世話をどれくらいしているか



岡山市こども計画策定までのイメージ

☆：子ども・文教委員会 ◎：子ども・子育て会議

実 施 区 分	令和6年度	
	上半期	下半期
アンケート結果報告	◎☆	
こども計画骨子案作成※		
こども計画骨子案審議	◎☆	
こども計画素案作成※		
こども計画素案審議		◎☆
こども・若い世代の意見聴取・パブリックコメントなど		
こども計画最終案作成		
こども計画確定・印刷		☆ 

※骨子案・素案は、庁内の関係部署で構成する推進会議において協議しながら作成を行う